

# 九州地区大学図書館協議会誌

第47号

2004

九州地区大学図書館協議会

## 目 次

### 【巻 言】

蔵めて他日の考索に備へん ..... 工藤 重矩 .....

### 【寄 稿 論 文】

「水害」と「シーボルト」と「法人化」 公開事業を中心として  
..... 片山 淳、深川 光郎 ...

### 【図 書 紹 介】

南九州大学・南九州短期大学図書 .....  
九州大学筑紫分 ..... 10

【加盟 ニュース】 ..... 13

【図書 活動報告】 ..... 23

【事 務 局 報 告】 ..... 31

### 【第55回九州地区大学図書 協議会総会記録】

平成15年度決算 ..... 43  
平成16年度予算 ..... 44

### 【資 料】

九州地区大学図書 協議会会則 ..... 45  
九州地区大学図書 協議会総会運営に関する細則 ..... 46  
九州地区大学図書 協議会入会に関する細則 ..... 47  
九州地区大学図書 協議会誌編 に関する内規 ..... 51  
九州地区大学図書 協議会表彰規程 ..... 51  
研修会の補助に関する申合せ ..... 56  
副幹事 の役割 ..... 58  
九州地区大学図書 協議会ホームページの運用について ..... 58  
加盟 一覧 ..... 60  
役員 一覧 ..... 64  
当番 一覧 ..... 67



おさ  
歳めて他日の考索に備へん

工藤重矩

平成16年4月に図書館長に就任して未だ1年に満たない。前館長との引継の中で、その4月の九州地区大学図書館協議会の当番館になっていると告げられ、あれよあれよのうちにその協議会が開催され、そしてこの会誌の巻頭言を書かねばならぬ仕儀となった。

4月以来、図書館関係の幾つかの会議に出席して、あらためて強く感じたのは滔々たる電子化の流れである。私の研究分野は日本古典文学であり、私個人の研究はほとんど電子的媒体に頼らないでも可能であることもあって、これまで図書館とはその名のとおり、紙による図と書との館と思っていたのだが、諸会議での話題の中心は電子的媒体とそのネットの構築であり、電子ジャーナル経費確保の問題であった。

そこで語られる億のケタの数字は、基本的には文系に分類される教員養成単科大学である我が福岡教育大学には想像もできない数字であった。世界の研究に伍していくためには電子ジャーナルが必要ということであるなら、我々にはどのような選択肢があるのだろうか。

国立大学は国立大学法人となった。その趣旨のひとつには、それぞれの大学が「競い合う中で輝く個性」の発揮を目指すことにあるとされるが、徒手空拳での「競い合い」を余儀なくされている大学としては、徒手空拳でも戦える場を見だし、その戦い方を身につけなければならない。しかもその戦場はおのずから限られている。そして図書館はその後方支援体制を整えなければならない。それが私どものような小規模国立大学の附属図書館に課せられた課題であろうか。4月以降の経験の中で、そのように考えるようになった。

しかしながら、個人の研究者としてはそれぞれの分野で世界に伍していく道を探すのは当然の欲求であり、その支援を図書館に求めるのも自然のなりゆきである。だが、無い袖は振れない。教員も袖が無いことは知っているのだから、ありがたいことに、強いて袖を振れとは要求しな

い。時間はかかっても何とかして求める情報にたどり着く道はあるから、その努力を個人に託すしかない。互いにつらいことである。

研究の最先端に伍していくと言うとき、おそらく文系と理系とではそのイメージがかなり異なるであろう。その異なりがそのまま図書館の役割の認識にも影響しているのではないかとも思う。例えば次のような情景を理系の研究者はどのように感じるだろうか。(理系にも情報の内容それ自体が研究の対象である研究史等の分野もあり、文系理系という分け方は必ずしも適切ではないが、対比の便宜である。)

もう30年の昔、20代の終りの頃、私はある写本の解題(その本の書誌的データや伝来、本文の性格特徴などを解説した文章)を書くために諸伝本の調査をしていた。どうしても本文を比較検討する必要があって、法人ではあるが一般公開はしていない由緒ある文庫の本を見たいと思い、恩師に相談したところ、紹介状を書いてくださった。先生からは閲覧上のこまごまとした御注意もいただき、文庫の許可も得られた。閲覧当日、他には誰もいない閲覧室で文庫の方と対座し、挨拶の後、しばらくは私が調査している本のことに関してお尋ね等があった。そうして後、それまで側に置いてあった写本を机の向こう側から「どうぞ」と広げてくださった。それで私は用意していた手持ちの写真版にその写本との本文異同を鉛筆で書き入れた。書き入れ終ると、「よいですか」と声がかかり、次の頁を開いてくださる。私が異同を書き入れ終ると、また「よいですか」と声がかかり、次の頁を開いてくださる。それが繰り返される。それまでも図書館・文庫での写本の調査は経験していたが、そのようなことは初めてだった。初めは、なんと親切なと思っていたのだが、途中でハタと気が付いた。これは親切ではなくて、その貴重な写本の扱いを私にまかせるのが心配なのだ、と。されば、先程の雑談は小手調べで

あったのか、と。いま思えば、その文庫は古写本を原状のままに保存するのが役割の場所なのだから、初めて閲覧に来た若い研究者に対する文庫の方の心配は当然のことであった。小手調べには受け損ないはなかったはずだが、などと考えながら、その時は冷や汗の出る思いであった。(学生に図書館の本を大事に扱いなさいと注意する時に、この経験を話すこともある。写本と今出来の活字本とは同じではないが。)このような過程を経て、執筆者としてようやく不安の無い解題論文が書ける。

古典研究者にとって、最先端の研究とは電子的情報とは無縁の場にしかないこともある。私は書誌学的研究には進まなかったもので、これ以降そのような緊張する経験は持たないですんだが、写本や古文書の研究を行っている研究者も多くいて、彼らの手になる写真複製や翻刻や本文研究論文等によって、我々は窮屈な思いをして原本を見ることもなく、楽々と研究を進めることができる。本文の研究は多くの場合、そのような非電子的場で行われている。

近年は古典本文が電子化され、写本・板本も画像で見ることができる物もある。研究の目的によってはツールとして極めて有効な場合もあり、まったく役に立たない場合もある。典籍・文書は研究のための情報であるとともに、研究対象そのものでもあるからだ。だから時には窮屈な思いをしても原本そのものを見る必要があるのである。もちろん写真ですむことも多いが、それとても画像として電子化されているものは極めて少数であり、現状では無いにひとしい。おそらく十年二十年のうちに電子版が現在の冊子体の写真版(影印本)を数量的に追い越すことはないであろう。理由は技術の問題ではなく、別の問題。そのようなわけで、私にとっては、図書館は図と書の館である。

私にとってだけでなく、文系には、すくなくとも文学部系にとっては、図書館は図と書の館

である。今現在の我々のためだけではなく、志有る畏るべき後生のためにも、基本的な図書は収蔵し保存しておく責務がある。消えない形で残す必要がある。

江戸時代の前期、我が国の事々を探求する学問、即ち和学(日本学)、いわゆる国学が興った。賀茂真淵・本居宣長の名は教科書にも記載されているが、江戸時代にあっては和学は正統の学問ではなかったから、漢学とは異なって公的な学校がなかった。そこで荷田春満(1669～1736)は幕府に対して国学の学校を創立することを請う文書を呈上した。原文は長い漢文で、雄渾にしてかつ惻々と胸をうつ名文であるが、いまは必要部分のみを要約する(岩波思想大系『前期国学』参照)。

——我が国に関する学問は棄てて顧みられなかった故に、我が国の歴史書・文学書には本文の誤りも多く、解釈も精確なものはない。古語の解明に力を尽くしてきたけれども、私は既に年老いた。私が蒐集してきた典籍文書は多く、校訂した史書もまた多い。学校を造ってそれらをみな収蔵し、後日の研究に供したい(ことごとくここに蔵めて他日の考索に備へん)。世には志はあっても書物が入手できず、未だその志を果たし得ないでいる者もいよう。幸いにその中から俊才が出現すれば、かならずや和学は興隆し、世の役に立つであろう。——

まことに、文系の学問にとって図書館なくしては大学ではない。図書さえ有れば、今は解明できないことも、人有っていつかは明らかにするであろう。我々はその日のために図書を収蔵し、保存し続けなければならない。「ことごとくここに蔵めて他日の考索に備へん」とは、昔も今も図書館の重要な使命のひとつである。とりわけ大学図書館の。

くどう しげのり

(福岡教育大学附属図書館長)

# 「水害」と「シーボルト」と「法人化」：公開事業を中心として

片山 淳、深川 光郎

## 一 はじめに

私達が九州大学附属図書館に勤めた（戻った）のは、平成15年4月1日からでした。思えば早いもので1年と9ヶ月が経過しました。国立大学にとって最大の改革といえる法人化を挟んだこの2年ほどは、私達の図書館人生にとっても大きな意味を持ちそうです。

今回、九州地区大学図書館協議会誌の紙面をお借りして、「水害とシーボルトと法人化：公開事業を中心として」というタイトルでレポートを書かせていただくことにしたのは、九州大学附属図書館での1年9ヶ月の間で、法人化を経験した国立大学附属図書館の一つのあり方が紹介できればという意味合いからです。

タイトルに含めた「水害」と「シーボルト」は平成15年度と16年度に実施した二つの展示会のキーワードです。そして、その間に「法人化」という名の大学改革があったという意味で、この報告のタイトルとしました。

## 二 昭和28年西日本大水害写真・資料展

### 1. 外部資金獲得のためのプロジェクト

九州大学に来て最初の仕事は外部資金獲得のためのプロジェクト企画でした。折から、5月11日の開学記念日に合わせて、展示会「昭和28年西日本大水害写真・資料展」の企画が進められており、これを九州大学附属図書館だけで終わらせずに、防災意識の普及を図るという観点から県内の都市に巡回させる試みをするために、財団法人国土地理協会に申請して研究助成を依頼しました。

### 2. 昭和28年西日本大水害写真・資料展

最初に、展示会開催後に書き連ねた九州大学附属図書館職員の大先輩岩猿敏生先生に事後承諾を得るために宛てた手紙で書いた主旨・概要を説明した一文を引きながら紹介します。

『昭和28（1953）年の西日本大水害から丁

度50年が経過しようとしています。6月24日の夜半から雨が降り出して翌25日に大水害を引き起こすことになった由、まもなく50年目の記念日にあたろうとしております。

九州大学附属図書館の今年度の展覧は、5月11日の大学開学記念日をはさんだ5月9日～18日までの10日間、中央図書館二階を会場に第44回展覧「昭和28年大水害写真・資料展：水・川・家・人の記憶」をテーマに開催いたしました。

10日の土曜日には、当時西日本新聞社の記者で水害の様子を写真に収めたという貴重な経験をお持ちの江頭光氏と、九州大学西部地区災害資料センターの橋本晴行助教授に展示会開催記念の講演をしていただきました。講演は、情報基盤センターの協力でインターネットにも同時放映されました。

展示は6つの地区（北九州・遠賀・筑豊、福岡、筑後、大分・日田、佐賀、熊本）に分け、被害状況を表す写真を選び、キャプション、場所・撮影日、撮影者名を付けて出しました。写真400枚程度でした。また、同時に、水害による被害状況を示す統計数字やグラフを作成し、新聞記事や参考文献など関連資料とともに展示し、わかりやすいものにしました。

資料内容を調査する中で、この大水害コレクション収集の経緯を示す資料として、「水害総合調査研究資料蒐集記録」というタイトルで、縦書きの野紙15枚に、7月30日から翌年6月3日までの約1年間の資料蒐集の経緯が記録されていました。その中には「岩猿司書官」、あるいは「岩猿」という記名がありました。また、これとは別に、アメリカ総領事館に宛てた、米国の新聞記事蒐集のお礼を述べた手紙（礼状）にも岩猿先生の名前が記されたものがありましたので、ともに当時の資料蒐集の努力を示す資料として展示しました。事後の報告となりましたが、先生の時代

に水害写真を収集したものが、このような形で甦ったことを報告するとともに、先輩諸氏の努力に対してお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。』

### 3. 福岡・佐賀・大分への巡回展示

展示会は10日間で展覧者は約450名でした。10時から17時までで1時間あたり6～7名の入場者ということになりますが、反響は大きく、国や県や市の防災関係機関等から、資料の借用・掲載依頼があり結構な数に上りました。新聞等にも取り上げられ、西日本新聞社からの紹介もあり、特定非営利活動法人筑後川流域連携倶楽部との共催等により、7月から10月にかけて以下の6都市で水害写真展・シンポジウムを開催しました。

久留米市 7月15日～21日

会場（筑後川発見館くるめハウス）

入場者 約1,402名

日田市 7月27日～8月3日

会場（三隈川交流センター 朝霧の館）

719名

大川市 8月18日～25日

会場（はなむね）

392名

鳥栖市 8月25日～31日

会場（鳥栖市中央公民館）

594名

福岡市 8月29日～9月2日

会場（天神ソラリアゼファー）

不特定多数

鳥栖市におけるシンポジウムで「筑後川大水害展」10月2日 213名

計 6都市（福岡県・佐賀県・大分県）

入場者総数 3,320+α

### 4. 電子展示

計画には当初から電子版の展示を開催することがありました。そのために写真の著作権者である新聞社等と折衝する必要がありました。4月に各新聞社をまわり、展示会開催の挨拶をし、写真の使用許諾を得ましたが、その際、電子版展示とアウトリーチの企画での利用計画があることを話して了解を求め、この時点で了解はされていたのですが、書類で

交わしたわけではなく、電子版展示でインターネットに公開するに際しては、再度交渉が必要となりました。

ホームページの案は7月の時点で一応骨格は完成していたのですが、公開利用のための許諾にはかなりの困難があると予想されました。そこで、インターネットに公開する画像は、解像度を荒くすること、また写真はPDF化してダウンロードや複写ができないようにすること、そして新聞社から購入なり寄贈なりで入手したものは所蔵権は九州大学に所属するが著作権という点からすれば新聞社の了解が必要なので、写真を新聞社ごとにCD-ROM化して提供することで何とか了解を取り付けることができるのではないかと考え、その方向で交渉しました。その結果、許諾までにかかなりの時間を要したものの話がつき、県庁・市役所・個人の許諾：（平成15年5月）、西日本新聞社（平成15年10月14日）、読売新聞社（平成15年12月3日）、毎日新聞社（平成16年1月19日）、朝日新聞社（平成16年1月19日）と許諾が得られ、平成16年2月5日より附属図書館ホームページからの公開（URLは<http://minerva.lib.kyushu-u.ac.jp/suigai/>）を開始しました。

附属図書館HPのトップページと電子展示との関係という面では、トップページに電子展示という表示を出し、トップページのニュースに通知文を流し、そこからリンクさせることとしました。たくさんある電子展示の中で、水害展のトップページは、「実際の展示会の開催期間」、「凡例」、「展示リストおよび解説」、「開催者」、「共催機関としての写真提供機関や助成金提供機関」、「著作権や他からのリンクの窓」などを設けました。「凡例」には、以下のような内容を含ませました。

- ・この展示は、昭和28年西日本大水害写真・資料展「水・川・家・人の記憶：西日本大水害から50年、災害を忘れないために」を電子的な形で再構成したもの
- ・展示した写真は、九州大学附属図書館の特殊コレクション「水害資料」の資料
- ・写真は、大水害直後から収集し、各新聞社・県庁・市役所等から購入したか寄贈を受けたもの

- ・写真の電子化に際しては、各新聞社・県庁・市役所等の了解を得ている
- ・出陳した写真の中で、個人が特定できるようなもの、あまりに悲惨なもの等は除外した
- ・(財)国土地理協会からこの電子展示にかかる一部について経済的な支援を得ている
- ・これらの写真は、資料の性格上ダウンロードや印刷を禁止する

この企画の財政基盤は国土地理協会から防災教育の普及活動に対する支援として得られた特別助成金です。いずれにしても、特殊コレクション「水害写真資料」があればこそ生まれた企画でした。収集・整理を進めた先輩諸氏、今回の企画に積極的に参加した現役の図書館職員の努力に感謝です。

### 三 大学の社会貢献事業としてのシーボルト展

#### 1. シーボルト『NIPPON』再発見

「どなたもご存知のシーボルトがなぜ九州大学の展示会のタイトルか？」については、医学分館の書庫の中からシーボルト『NIPPON』(1823-1851)初版本の未製本版が見つけたことが契機になっています。その経緯については、広報誌「図書館情報」(38巻3号2003年3月)に記述されています。古医書の展示会を開催するために、医学分館の貴重書庫で作業をしていたところ、この積み上げてあるばらばらのものは何だろうということから、専門の先生に見ていただくとシーボルトの刊行した『NIPPON』だったという訳です。再発見でした。

#### 2. 「シーボルトが観た日本」展

開学記念展示会として取り上げた「シーボルトが観た日本」展は、5月9日から18日までの10日間、附属図書館および医学分館(10日から15日)で開催しました。期間中の5月15日(土)には、次の二つタイトルの関連講演会を開催しましたが、この時の入場者は105名で会場が一杯になるほどの盛況を呈しました。

宮坂 正英(長崎純心女子大学教授)氏  
「日本情報編集者としてのシーボルト」

宮崎 克則(九州大学総合博物館助教授)氏

「再発見!シーボルト『NIPPON』」

一方、3月に県立図書館と九州大学附属図書館医学分館に所蔵する「NIPPON」初版本を比較した記事が西日本新聞に掲載された(3月18日付西日本新聞夕刊)こともあり、話題性ができ、新聞やテレビが積極的に取り上げてくれたために前評判は上々と言う感じもありました。

社会連携ということからすると、3月26日に福岡県立図書館と九州大学附属図書館は相互協力協定を締結して、資料配送システムに支えられた新たな市民へのサービスの展開を図りました。後にわかることですが、この二つの出来事が、新たな展示会への伏線となったこととなります。

展示会開催期間中に来館した人は約640名(医学分館はこれとは別に約180名)でした。昨年話題をとった水害展と比較して見ると約1.42倍という数字でした。来館者のアンケート結果を「図書館情報」(40巻1号2004年7月p.8-9)に掲載していますが、以前から交通の便の良い都心で開催して欲しいという根強い要望がありました。

#### 3. 社会連携事業:アクロス福岡での展示会へ

展示会に対する意見の中には、福岡県立図書館との間で、新聞で話題になった『NIPPON』初版本を比較した展示や、『植物誌』や『動物誌』も見たいという市民の声もありました。これに応えようという話が出て、交通の便の良い市の中心部天神で共同展示会を開催することへと話は展開しました。6月に第1回の実行委員会を開催し準備が始まりました。双方で館内にWGを設置して作業を進めることとし、一方で会場探しをして、福岡県の財団法人であるアクロス福岡を会場に展示会と関連講演会を開催すること、2月8日から13日という日程が確保できたのが8月のことでした。

一方、計画の具体化に合わせて、九州大学としての社会連携事業計画の募集があり、県立図書館との共同事業としてアクロス福岡



(都心)での展示会「シーボルトがみた日本」開催で応募したところ、財政的な支援が得られることが10月に決定しました。

県立図書館との打合せを続ける中では、10月末から11月にかけて「とびうめ国文祭」が開催されるということもあり、国文祭に連携して双方で展示会を企画することし、県立図書館は10月20日から「シーボルトと福岡」と題した展示会を、九州大学附属図書館は11月1日から県立図書館に連携して常設展示「シーボルト『NIPPON』の源泉を少し」を開催しました。

そして、現在は平成17年1月です。展示会まで残すところ1ヶ月となり、準備に追われています。ポスターができあがり、チラシもまもなく完成というところです。会場で配布するカタログも内容がほぼ固まり、原稿を印刷業者に渡すところまで漕ぎ着けています。職員のWGで展示の内容を分担して作成してきました。本館と医学分館の若手職員8名が中心となって、情報サービス課の掛長諸氏も入って準備を進めてくれています。

別に、展示会に協力をいただいている機関として、シーボルト記念館や長崎大学附属図書館、そして学内からは韓国研究センターが協力をしてくださることになっておりますし、シーボルトの生まれ故郷(ヴェルツブルク)にあるシーボルト協会・シーボルト館にも協力要請を行い、資料の利用等で協力が得られることになりました。

一方、2月8日から13日までの期間で、シーボルトに関連するテーマでの講演会として、展示会場の横にあるアクロス福岡二階研修室を会場に以下の二つの企画が準備できました。

1. 2月9日(火)14時～ 谷口治達 九州造形短期大学学長 「シーボルトと絵師たち」
2. 2月13日(土)14時～ Wolfgang Michel 九州大学言語文化研究院教授 「シーボルトの日本観—日本のシーボ

ルト観」

広報面では、記者会見を開いて情報を流し、話題づくりに力を注ぐとともに、これも3月からスタートした福岡県内図書館協議会組織のそれぞれのネットワークも活用して、公共図書館・専門図書館・学校図書館・大学図書館へのPRも実施する予定です。また、インターネット上でも様々なPRを行いますし、アクロス福岡のイベントとしてのPRも積極的に取り組んでいただいています。地下鉄の駅や地域の自治会や会場近くでのチラシの配布などにも取り組む予定です。

もう一つ重要なことがあります。それは、法人化して新たなビジネス・モデルを作ろうという企画です。これについては現段階では形をなしておらず検討中ですので、展開として別の機会に報告させていただきたいと思っています。

#### 四. さいごに

さて、以上のように、平成15～16年度に取り組んだ展示会の開催における九州大学の特徴について紹介してきました。法人化になって何が影響したかという面を考察して、まとめしたいと思います。以下の4点が重要だと考えます。

- ① 事業ですから財政的な基盤の確保が重要だということ
- ② 大学の社会貢献(連携)事業としての位置づけが明確になっていること
- ③ 図書館職員が専門職としての意識を持って積極的に取り組める環境を作ること
- ④ 広報をしっかりと行い明確な意図と目標をもって取り組むこと

来年度のこの機関誌には、これらの活動の実施報告とともに、更なる活動の展開が報告できることを期して遅筆を置きます。

(平成17年1月7日)

かたやま あつし、ふかがわ みつろう  
(九州大学附属図書館)

## 図 書 紹 介

### 【南九州大学・南九州短期大学図書館】 【南九州大学高鍋図書館（旧：南九州大学附属図書館）】

#### はじめに

南九州大学・南九州短期大学図書は、平成15年 月に新キャンパス 南九州大学健康栄学部・南九州短期大学移転 の開学と同時に開しました。それに伴い、昭和42年大学開学時に開した南九州大学附属図書は、南九州大学 高鍋図書 へと名称を変更しました。現在、南九州大学の図書は新図書 本 ・ 高鍋図書 分 の で運営されています。



大学全景（宮崎）

### 【南九州大学・南九州短期大学図書館（宮崎市）】

この図書は大学の専門である栄 ・ 品 ・ 医学系の図書と、短大の専門である英語 ・ 社会科学系の図書を中心とした収 を行っています。また、利用者は 高鍋図書 の専門である園芸 ・ 造園 ・ 環境系の蔵書と合わせてより広い分野の研究資料を入手することができます。

図書は本の 部分にあり、利用しやすい環境となっています。



新刊展示（宮崎）

#### [施設概要]

閲覧スペース	314㎡
スペース	15㎡
事務室スペース	23㎡
その他スペース	㎡
閲覧室座席数	60席
座席数	席
書架収容能力	37,500冊



雑誌コーナー（宮崎）

## 【南九州大学高鍋図書館（児湯郡高鍋町）】

鍋図書 は、造園学科棟の新設に伴い、平成15年10月に学科と共有していた 号 旧造園棟 全 を図書 施設とするために改修を行いました。

改修により閲覧スペースが拡張され、座席数が増加し、開架書架が増え、書庫スペースを新たに設けたことにより収納可能冊数も大幅に増加しました。照明を増やし外部の採光をとることで 内は明るく、個人専用机を多く設置したことで、学習に 中しやすい環境を整えることができました。以前は蔵書を検索するために手続きを必要としていましたが、すべてを開架書架としたことにより利用者が自由に閲覧できるようになりました。

視聴覚設備を新設した 鍋図書 は、所蔵資料を今後充実させていく計画であり、利用者の希望も取り入れながら、学部の研究内容に沿った資料を選定し、収 するよう努めています。

### 【施設概要】

	改修前	改修後
閲覧スペース	249㎡	888㎡
書庫スペース	408㎡	59㎡
スペース		104㎡
事務室スペース	54㎡	104㎡
その他スペース	265㎡	195㎡
閲覧室座席数	74席	124席
座席数		席
書架収容能力	89,000冊	114,000冊



個人専用机と開架書棚（高鍋）



雑誌コーナー（高鍋）



書庫内移動書架（高鍋）

## 利用について（両館共通）

開 時間は平日 時から18時 休業期間中は  
時から16時 、土日祝祭日は休 となってい  
ます。貸出冊数及び期間は学部学生が 冊 週  
間、大学院生が10冊 週間です。

OPACを利用し、両図書 の 誌・図書を検索  
することができます。図書については、学内定  
期便を使うことで当日もしくは次の日には利用  
者の手元に届きます。

今後、Web上から図書 への文献複写依 、  
図書の予約等ができるようにし、利用者へのサ  
ービス向上を計っていきたいと考えています。



学生用端末（高鍋）



入口のBDS（高鍋）

## 【九州大学筑紫分館】

新しい大学図書館をめざして  
—筑紫分館新館施設概要・利用案内—

筑紫分館は平成13年4月、筑紫地区に開館してから仮施設でサービスを行ってききましたが、平成16年4月、新しく竣工した総合研究棟に移転し、正式にサービスを開始しました。

新館ではICタグや自動書庫など、他地区の図書館にはみられない最新の技術が導入されており、まさに“新しい”大学図書館のモデルケースとして運用されています。今回はこの筑紫分館新館の施設概要と、利用方法をご案内します。

### 施設概要

筑紫分館新館は総合研究棟（C-Cube）1、2階に位置し、筑紫地区各部局（大学院総合理工学研究院、応用化学研究所、先導物質化学研究所、健康科学センター、中央分析センター、産学連携センター、大学院システム情報科学研究院）の利用者を主な対象としてサービスを行っています。

延面積は1,588㎡を有し、そのうち所蔵スペースは424㎡、閲覧スペースは196㎡で、利用者用の閲覧座席は75席を準備しています。資料の所蔵には、新しい書庫システムとして自動書庫を導入し、所蔵スペースの効率化と利用者への迅速な資料の提供を図っています（詳しい使い方は利用案内を参照）。今回導入した自動書庫

の収納可能冊数は6万冊で、現在は約2万1千冊の図書が収納されています。このほか図書は1階開架図書閲覧室に約6千冊を配架しています。雑誌は筑紫分館で購読、または寄贈を受けている約200誌を1階一般雑誌開架閲覧室・専門雑誌開架閲覧室に配架しているほか、移転時に各部局から供出を受けた約950誌のバックナンバーを2階雑誌書架（電動移動書架）に配架して利用者に提供しています。

また情報サロンでは情報検索端末20基を利用者に開放しており、Webブラウザを通じて附属図書館の提供している電子ジャーナルや文献データベース等の各種サービスを利用することができます。

### 利用案内

#### 【開館時間】

【平日（月～金）】 9：00～20：00

【土曜日】 10：00～18：00

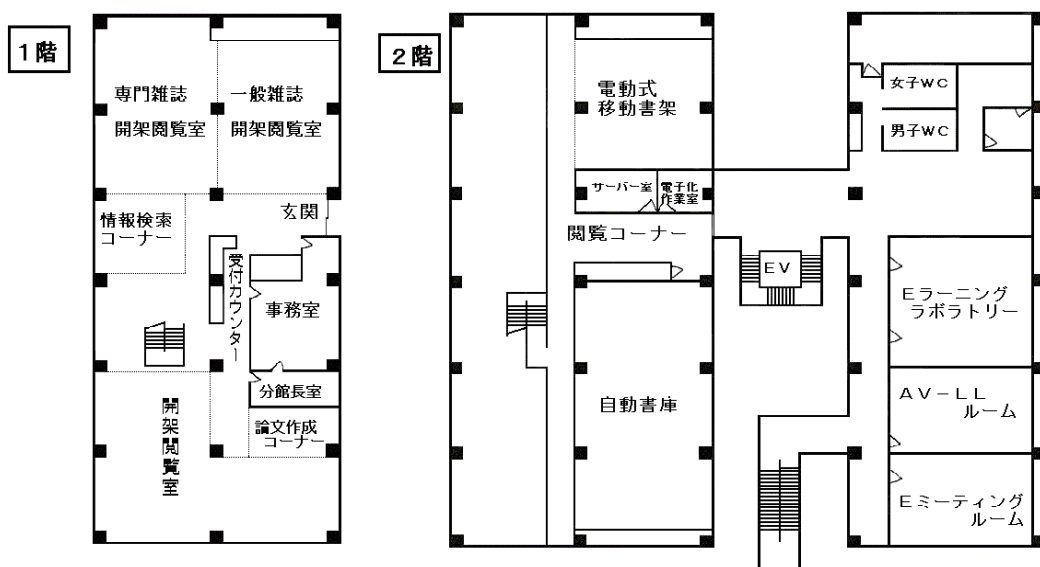
#### 【休館日】

日・祝日、年末年始、8月11日～16日

#### 閲覧・貸出

筑紫分館へは図書館利用者票または学生証（身分証明書）を提示して入館ください。どなたでも自由に館内の資料を閲覧することができます。ただし視聴覚資料については施錠棚に配

### 筑紫分館 新館平面図



架しておりますので、視聴を希望する場合は閲覧カウンターにお申し出ください。職員が資料を出納いたします。

図書の貸出は、図書館利用者票（学生証）を持つ九州大学在籍者について、一律貸出冊数は5冊、貸出期間は2週間までとなります。貸出期限の更新は他利用者からの予約が入っておらず、貸出期間内の申請であれば1回に限り可能です。

ただし雑誌、新聞、参考図書、視聴覚資料については禁帯出資料として貸出は行っておりません。これらの資料の一時持出を希望される場合は閲覧カウンターまでお申し出ください。

なお学内図書配送サービスを利用すれば、直接来館しなくても図書の貸出が可能になりました。このサービスに参加している他地区図書館所蔵の図書も、同様に筑紫分館で受け取ることが可能です。これらサービスの詳細については、別途附属図書館ホームページを確認されるか、お近くの図書館担当掛までお問い合わせください。

#### 複写・相互利用

筑紫分館では館内にプリペイドカード式複写機を2基設置しています。プリペイドカードは校費でのみ購入可能で、筑紫分館専用となります。他の図書館等設置複写機には利用できませんのでご注意ください。またカードの購入には申込書による申請が必要です。閲覧カウンターまでお申し出ください。

利用を希望する資料が筑紫分館にない場合は、学内の他地区図書館や他大学図書館等へ文献複写や図書貸借の申込をすることができます。申込書の記入が必要となりますので、複写（貸借）を申込まれる場合は閲覧カウンターまでお申し出ください。その他、より詳しいスケジュールや利用方法は筑紫分館ホームページで案内しています。ご確認ください。

分館URL：<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/dep/eng/>

#### ・自動書庫資料の利用について

ここでは筑紫分館で新しく導入されている自動書庫、ICタグを使った設備の利用についてご案内します。

自動書庫に収納されている資料は九州大学附属図書館OPAC上の所在で『筑紫分館 自動書庫』と表示されます。



自動書庫内の資料の利用を希望する場合は、上記OPACの所在表示横に記載されている該当資料の資料番号を控えた上で、閲覧カウンターに利用の旨をお申し出ください。職員が閲覧カウンター横出納ステーションから資料を出納いたします。資料の出納にかかる時間は、およそ2分前後です。出納された資料はその場でお渡ししますが、お渡しした時点では貸出処理されておりません。貸出を希望する場合には別途貸出処理が必要になります。

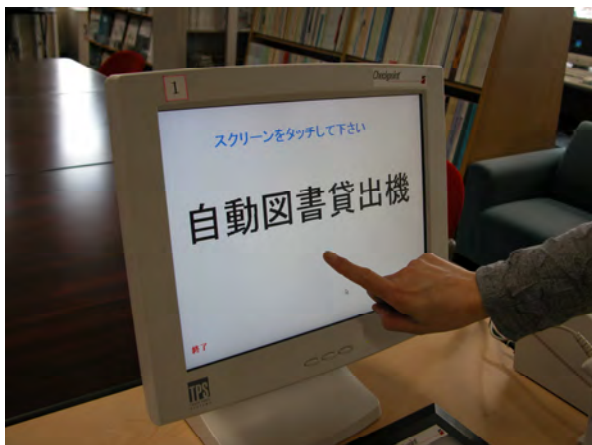
また当面の間、自動書庫資料の出納時間を平日（月～金）9：00～17：00までとさせていただきます。ご注意ください。

#### ・自動貸出機の利用手順

筑紫分館では、資料情報を記憶させたICタグを資料に貼付して図書館システムを運用していますが、このシステムの一つとして自動貸出機を設置しており、図書の貸出処理を原則として利用者自身にお願いしています。

利用手 は以下のとおりです。

① 自動貸出機画 にタッチする



② 貸出機台上のバーコードリーダーで、図書利用者票 学生証 のバーコードを読取らせる



③ 図書を貸出機台 のスキャン台に置き、ICタグを読取らせる



④ 画 内の完了ボタンを押すと、台上の発行機から返却期限の入ったレシートが発行されるので、それを切取って完了。

読んでわかるように手 は くほど簡単です。筑紫分 所蔵図書を借りる時には是 ご利用ください。

なお自動書庫所蔵図書などに一部ICタグの貼付されていないものがありますが、これらの図書については従来どおりカウンターで貸出処理を行っています。図書をカウンターまでお持ちください。

最初に紹介したとおり、筑紫分 は分 としてまだ歴史も浅く資料等で充実していない があることや、他地区と比べて若干地理的に れているために、まだ利用者の皆さんにはいまひとつ 染が薄いかもしれません。

ただ、記事でご紹介したように全国的にみても先 けたシステムを導入し、かつ他地区図書とも連携を図りながら今後サービスを充実させていく予定です。筑紫地区の利用者の方はもちろん、他地区の利用者の皆さんも学習・研究のさまざまな機会にぜひ筑紫分 をご利用ください。

## 【鹿児島純心女子短期大学図書館】

### 図書館電子計算機システムの更新

平成16年9月に図書館電子計算機システムを「(株)NTTデータ・NALIS」にリプレースを行った。今回の新たなサービスとして、Webからの文献複写依頼、購入希望図書の受付、貸出状況の確認および予約を行えるようにした。また、これに伴い、ホームページもリニューアルした。

### 中学生の「職業インタビュー」受入報告

平成12年から「職場体験学習」を受入れている鹿児島市立東谷山中学校から、「職業インタビュー」の依頼があった。これは、進路について考えるきっかけになるようにと実施しているということなので、少しでも司書の仕事について理解してもらい、司書を希望する人の参考になるよう、受入れることにした。日程、内容は下記のとおりであった。

日時：12月1日、9時30分～11時

人数：1年生7名（女子3名・男子4名）

インタビュー内容：

1. 本学図書館について・・・蔵書数、広さ、一

日の貸出冊数・利用者数

2. 司書と仕事について・・・資格の取得方法。図書館に勤めるには司書の資格が必要か。仕事の内容、大変なこと、楽しいこと。本のどの部分が一番大切か。分類方法。どういう本がよく借りられるか。
3. 館員について・・・勤務年数、なぜ図書館に勤めたか、小説や詩を書いているか。

等々

初めてのことなので、どのようなことを聞かれるかわからなかったが、すぐに答えられるもの、また、考えさせられるものがあり、中学生が、図書館に対してどのような疑問を持っているか参考になった。こちらからも司書を希望しているか聞いたところ、希望しているのは、女子生徒のみであったが、質問を受けながら館内の見学と撮影をしたところ、男子生徒も興味を持ってくれたようだった。

今回を参考に来年度からは、もっと図書館に対し理解を深めるように準備していきたい。

## 【鹿屋体育大学附属図書館】

### 1. 図書館事務組織の改編

平成16年4月からの国立大学法人化により、鹿屋体育大学も事務組織の改編をおこなった。従来の事務組織は、図書情報課として、管理係及び情報サービス係の2係であったが、今回の改編に伴い図書館業務に情報系及び研究協力系の業務を加え、学術図書情報課となり、図書管理係、図書サービス係、情報システム係、研究協力・連携係の4係制となった。

また、図書館長は、学長補佐の併任となった。

### 2. 文献検索利用説明会の開催

電子図書館的機能の強化として、スポーツ関係の二次情報データベースである「SPORT Discus」をWEB版に移行させた。

また、教員、学生を対象に、平成16年6月23

日に外部講師を招聘し「SPORT Discus」の紹介、検索方法、データベース掲載データの項目及びディスクリプタの紹介等の利用説明会を開催した。

### 3. 図書自動貸出返却装置の導入

今年度に自動貸出返却装置を導入する予定である。図書のバーコードチェック、タトルテープの信号の消去・付加、利用者カードのチェックなど、貸出・返却時の一連の作業を自動的に行うことにより、利用者に対してより高いサービスを提供すると共に、利用者自らのプライバシー保護にも役立ち、図書館業務のより一層の効率化及び図書館サービスの高度化を目指している。

この装置の導入準備のためバーコード式資料



IDが貼られていない図書にバーコード式資料IDを貼付する作業をおこなった。また、これを機に利用者カードを磁気カードに変更する予定である。

#### 4. 図書購入依頼申し込みのオンライン化

従来、教員からの図書購入の申し込みについ

### 【九州大学附属図書館】

#### 1. シンポジウム「飛翔できるか大学図書館：法人化をバネに風を西から」

平成16年1月16日、「飛翔できるか大学図書館：法人化をバネに風を西から」と題し、九州地区国立大学パネルディスカッションを開催しました。4月からの法人化を目前に控え各大学とも準備が大詰めを迎えているなか、文部科学省高比良幸蔵情報推進専門官、東京大学附属図書館笹川郁夫事務部長、京都大学附属図書館大埜浩一事務部長を迎え、特別講演並びに事例報告等の後、会場の約50名の参加者を交えた活発な討論が行われました。このシンポジウムは、法人化を契機に大学図書館サービスを一層飛躍させるとともに、地区内の国立大学図書館職員の意識向上を目的として開催しました。

#### 2. 福岡県立図書館との相互貸借協定の締結

福岡市総合図書館との相互貸借協定に続き、平成16年3月26日に九州大学附属図書館と福岡県立図書館の間で相互貸借協定を締結しました。今回新たに福岡県立図書館と協定を結んだことにより、九州大学の職員や学生が県立図書館まで行くことなく県立図書館の図書利用が可能となりました。九州大学では中央図書館、医学分館、芸術工学分館及び六本松分館がこの協定に参加し、それぞれが所蔵する図書館資料を相互に貸借することにより、さらなる利用者サービスの向上を図っています。

#### 3. 九州大学附属図書館筑紫分館の新図書館が開館

平成13年4月、筑紫地区に開館してから仮設設備でサービスを行ってきた筑紫分館が、新しく竣工した筑紫地区総合研究棟（C-Cube）に移転し、平成16年4月から新図書館として開館し

ては、書面により行っていたが、今年度より図書館ホームページからできるように変更した。これにより、教員室のパソコンから図書の購入申し込みができ、また依頼した教員は、図書の納入状況を画面で確認できるため利便性が高まった。

ました。新館は総合研究棟の1、2階に位置し、延面積は1,588㎡を有し、ICタグによる資料管理や自動書庫による所蔵資料の保管・管理など、他キャンパスの図書館には見られない最新の技術が導入されています。また、従来筑紫地区各研究所、センター等図書室に分散配架されていた図書、雑誌の一部を集中化し利用者に提供しています。

#### 4. 箱崎キャンパス受入目録業務の中央図書館への集中化

平成16年4月から、大学法人化に伴い、従来箱崎キャンパスの各部局で行われていた図書、雑誌の受入・目録関係業務の一部を中央図書館へ集中化しました。業務の集中化により各部門で独自分類をしていた工学系図書の請求記号体系を中央図書館と同じにし業務の標準化を図るとともに、購入資料の一括納品、検収、支払による業務合理化により目録・装備までの整理期間の短縮を目標としています。

#### 5. ソウル大学校図書館との図書館間交流協定の覚書を交換

平成11年3月に大韓民国ソウル大学校中央図書館との図書館間交流協定を締結し、平成13年からは大学全体としての学術交流協定を交わし、大学間交流という枠組みのなかで交流を深めてきましたが、平成16年5月19日、ソウル大学校館長許南進館長をはじめとする図書館職員7名の訪問を受け、資料交換の強化等について協議を行いました。そして、大学間の学術交流協定に基づき図書館業務の交流を一層進めることに努力するという趣旨の覚書を交換しました。

## 6. ソウル大学校図書館との大学図書館IT化に関する国際セミナーを開催

平成16年5月20日、ソウル大学校図書館との交流協定の第一歩として、共催による国際セミナーを筑紫分館で開催しました。「ソウル大学校図書館の概要と電子図書館の現況」（金英愛ソウル大学図書館主任司書）、「九州大学附属図書館におけるICタグと自動書庫による図書管理」（南俊明九州大学附属図書館特別研究員）、「国際ILL（GIF）と日韓プロジェクト」（大場高志国立情報学研究所コンテンツ課長）の3件のプレゼンテーションによる報告が行われ、続いてもたれたディスカッションで日韓の大学図書館の新しい協力関係の構築について活発な議論が交わされました。

## 7. 貴重資料「シーボルト『NIPPON』展示会・公開講演会」開催

開学記念行事として45回目となる展示会を開催しました。平成16年5月10日～19日、江戸時代に西洋医学を伝える重要な役割を果たしたオランダ医者の一人、ドイツ人フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの著書「NIPPON」初版本の図版原本100枚以上を展示し、学内・外から多数の入場者がありました。展示会開催期間中の5月15日には長崎純心大学教授宮坂正英氏による「日本情報編集者としてのシーボルト」と、本学総合博物館助教授宮崎克則氏による「“再発見”シーボルト『NIPPON』」と題した公開講演会を開催しました。また、今回は、医学分館でも「シーボルトと医学」をテーマに5月10日～15日まで中央図書館とのジョイント展示会を開催し、180名を越える入場者がありました。

## 8. 学術情報ポータルオンラインサービス「My Library」の開始

従来のWebサービスを統合し機能を強化した「My Library」による利用者サービスを開始しました。申請書を提出した利用者に対して、各個人の貸出中資料、予約中資料の照会が行えるとともに、学内図書配送サービス申込、学外文献複写申込・学外図書借用申込・学内文献複写申込（いずれも校費のみ）等のサービスが附属図書館ホームページから学内だけでなく学外か

らも利用できるようになりました。

## 9. 平成16年度国立大学図書館協会賞（第39回）を受賞

平成16年7月1日、大阪大学コンベンションセンターにおいて開催された第51回国立大学図書館協会総会において、「九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会の活動」が、栄えある平成16年度国立大学図書館協会賞を受賞しました。

選考委員会においては、「研修会の成果として、ラテン語古刊本の目録作成の有効なツールとなるとともに、図書館職員のためのテキストともなる『タイトルページを読む楽しみ』を発行し、大学図書館で共有できるものとしたことは大きな意義がある。」「研究者との協力・連携による研修会活動を通じ、図書館職員の専門性の向上に寄与するとともに、図書館職員に対する学内および地域における社会的な認識の向上にも貢献しており、高く評価できる。」とし、その功績が高く評価され今回の受賞となりました。

## 10. 附属図書館研究開発室の活動状況

平成8年度に設置された研究開発室の平成16年度の研究開発事項は、次の11項目である。

- ① 図書館の将来計画に関する調査研究
- ② 統合移転後の新図書館計画に関する調査研究
- ③ 電子図書館システムの研究開発
- ④ RFIDタグによる図書館運用に関する調査研究
- ⑤ レファレンス事例検索システムに関する調査研究
- ⑥ 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する調査研究
- ⑦ 貴重古医書のデータベース化及び医史的、書誌学的な調査研究
- ⑧ 古書・文書データベース構築に関する調査研究
- ⑨ アジア研究コレクションの構築及び同コレクション・データベースの構築に関する調査研究
- ⑩ 海外の大学図書館との図書館間交流の推進に関する調査研究

⑪ 図書館職員の専門性育成並びにサブジェ  
クト・ライブラリアン制度に関する調査研

究

## 【九州工業大学附属図書館】

### 1. 電子ジャーナル経費の一元化（部局）

電子ジャーナルは研究・教育を行う上で基本的資料となっていますが、その整備は特定学科・教官の経済力又は購入意欲に依存する不安定な状況となっております。本学では、昨年度から部局の図書委員会で大学の共通経費化を検討してきましたが、当面の措置として平成16年度から部局共通経費として措置することができました。

更に全学共通経費化を図るべく学長・副学長会議等へ提起しているところです。

### 2. 学習用視聴覚ルーム・視聴覚資料の整備

学習資料メディアの多様化対策として、学習用視聴覚ルームの整備と映像・音声資料の整備を進めています。このうち映像資料（DVD、VTR主体）はここ5年ほど学長裁量経費等により整備を進めてきましたが、今年度は、学内措置による「教育基盤経費（約600万円）」により、英語学習支援映像資料の整備と本館の視聴覚機器を視聴覚ルームとして更新・整備いたしました。視聴覚ルームでは、DVD、VTR再生の他、衛星放送（当面は放送大学のみ）を受信することができます。（現所有DVD：1,000本、VTR：2,000）



視聴覚ルームにて

### 3. 史料室の設置

本学は、明治専門学校を前身としてスタートいたしました。2009年（平成21年）に創立100周年を迎えます。記念事業として100年史を編集刊行することとしておりますが、編集事務局に附属図書館が指名されております。事務局としての事務は、編集委員会関係と編集のための沿革資料の収集整理及び記念誌の発行事務となりますが、過去に何度か記念誌が発行されているものの、編集に使用された資料が保存されておられません。このため、記念誌発行事業に併せて図書館に「史料室」を置き、収集した資料を次の100年に向けて保存・整理し、必要に応じ学内外の閲覧に供することといたしました。資料の収集整理には、図書館職員の他、ボランティアの皆さんにも従事していただいております。



沿革資料の目録データベースを作成する図書館職員・ボランティア

史料室ホームページ

<http://www.libt.kyutech.ac.jp/KIT100thAnni/index.html>

## 【佐賀大学附属図書館】

### ① 「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』について

佐賀大学附属図書館では、平成16年9月1日～10月11日の期間に、「高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』」のアンケート調査を実施した。

高校生の読書傾向及び志向を調査し、あわせて読書意欲を喚起することなどを目的として、佐賀県内の47高校、九州地区及び九州地区以外の佐賀大学合格者の出身高校の生徒を対象に調査した。

8月上旬のオープンキャンパス時に訪れた高校生を対象とするプレ投票と、9月1日～10月11日の間の投票用紙、インターネット等による本投票とで行われた。投票人数は3,886名、投票冊数は7,086冊であった。トップは483票集めた「ハリー・ポッター」であった。上位100冊は蔵書として備え、新入生、在学生の利用に供する予定である。上位10冊は、マスコミで取り上げられた話題作や、映画、テレビで映像化されたものが多く、メディアの影響の強さが感じられた。海外作家の翻訳本に人気があり、高校生の興味が海外にも広がっていることが感じられる。若者を描いた作品が多い中、古典も健闘していた。

なお、全100選を本館ホームページに掲載中である。

### ② 地域文化交流事業の実施

小城町立歴史資料館との地域文化交流協定(平成15年2月締結)による交流事業の一環として、今年度は「一小城鍋島文庫に見る一小城

鍋島藩と島原の乱展」を小城町立歴史資料館において8月10日から9月19日の間開催した。開催内容等以下のとおり。

#### (1) 資料展示

小城鍋島文庫「島原の乱」関係資料(鍋島若狭守他連署血判状、鍋島勝茂書状、他計20点)、原城出土遺物資料の瓦、銃弾、メダイ、十字架、島原の乱出陣図等

#### (2) 図録作成

#### (3) 講演会

・「小城鍋島藩と島原の乱」

講師：宮島敬一(経済学部教授)

・「古墳時代の佐賀」

講師：佐田 茂(文化教育学部教授)

・「地域コミュニティと街づくり」

講師：長 安六(経済学部)

・「原城跡出土のキリシタン遺物」

講師 松本慎二(南有馬町教育委員会)

・「戦国時代を生き抜いた武将たちー田尻・鶴田氏の激動の100年」

講師：宮島敦子(文化教育学部教授)

### ③ 図書館月間の開催

#### (1) 貴重資料展示

市場コレクションの中から佐賀にゆかりのある中世から近世の文人の短冊、色紙について、大学オープンキャンパスの開催時期にあわせ、11月15日から11月22日の間ロビーに展示公開した。

#### (2) 文化講演会

「芭蕉の文芸ー古典への回帰を願ってー」

講師：上野信好(佐賀市収入役)

## 【西南女学院大学図書館】

2004年度は、大学開学10年目にして大きな転換期を迎えた年である。

一つは、短大の大学短大部への移行に伴う組織変更である。これにより①館名変更、②3つの図書委員会の統合、③研究紀要委員会関係業務の図書館への移行並びに研究紀要の統合がなされた。

もう一つは、図書館の情報化機能及び電子化

機能が整備されたこと、また利用者サービスが充実したことである。

今年度のトピックスをいくつか紹介する。

### 1. 図書館、学内LANとのネットワーク接続完了

2004年9月中旬に学内LANと図書館とのネットワーク接続が完了し、以下のサービスが可能

となった。先生方への教育研究に大いに貢献していきたい。

#### ① 図書館ホームページの充実、WebOPACの公開

2004年度から図書館のホームページを開設し、大学のホームページにリンクさせた。10月からは、研究室からの蔵書検索、学術情報サイトへのリンク集も充実させた。新しい研究へのきっかけとなれば嬉しい。また学生への指導にも役立ててほしい。

#### ② 医中誌Web版の研究室からの利用（学内のみ）

同時アクセス数を5～8に増やし研究室からアクセス可能となったため、看護・栄養関係の先生方に喜ばれている。

#### ③ 電子ジャーナルの学内公開

購読中雑誌の内、無料でフルテキストを公開している約40誌について、研究室からアクセス可能となった。

## 2. 新企画「ビデオ上映会」を開催

ガイダンスの一環として、「ビデオ上映会」を以下の要領で開催した。

先生方にも電子掲示板や文書で、学生の参加を奨励していただくよう協力依頼した。その効果もあって151名（全学生の6.5%）の参加があった。

参加者アンケートによると、144名（回答者145名）が「今後役に立つ」と回答しており、好評の内に終了した。

期間：6月21～25日の5日間 毎日3回  
(10:40～、14:40～、18:00～)

場所：図書館会議室

定員：1回に20名 全科全学年対象（事前申込不要）

時間：40分（導入1分、ビデオ34分、補足説明・アンケート記入6分）

担当：司書5名のローテーション 一人4回

内容：「新・図書館の達人」6巻『レポート・論文作成法』2002年紀伊国屋書店刊

資料：ビデオ付属資料の「学習のポイント」1枚

## 3. 教員対象の情報検索サービス説明会を開催

10月22日（大学祭準備休講日）に午前と午後の2回、研究室からできる情報検索を紹介する説明会を開催した。教員4名の参加があった。

教員一人一人の進度に差があり、スタッフが一人ずつ補佐する形になったが、各先生とのコミュニケーションも深まった。

今後は、要望があれば個別にも対応する予定である。

## 4. 自由応募制ガイダンス実施

第3回目となる今秋も、10月中旬～12月中旬に計20回（1回30分）実施している。昨年に比べ応募者が少なく、11月末で延べ6名である。

(2003年度延べ参加者数23名)

司書5名のローテーションで担当している。開催時間前に館内放送でも呼びかけを行っているが、余り効果がない。

## 5. OPAC用PCを10台増設

2001年4月3台からスタートした検索用PCは7台となっていたが、2004年度に10台増設が実現し、計17台となった。

2階と地階に各2台、無線LAN経由で蔵書検索専用PCが整備された。1階は13台になった。昼休みや放課後には既にフル稼働している。学生達が一生懸命に検索している姿が毎日見られることは嬉しい。

なお、OPACに反映している入力データ数は177,000冊以上となり、開架図書はほぼ100%検索可能となった。これはスタッフがこつこつと一冊ずつ図書を元に遡及を始めて、7年目にして達成した成果である。

## 6. 雑誌の貸出を開始

図書委員会の要望を受けて、2004年4月から最新号以外の雑誌の貸出を開始した。

期間は1週間、手書きでの貸出になる。受付での対応がかなり煩雑になったが、利用者の便を優先することとした。

2003年度以前の分は、禁帯出ラベルを貼付してあるが、そのまま貸出を行っている。（雑誌コーナーにその旨掲示。）

11月末までの貸出実績は、学生・教職員・学外者合計1,075冊、5.8冊/日である。

## 7. 図書館報を復刊

1983年以降、図書館報の発行を止めていたが、2004年4月から就任された近昭夫館長の発案により、図書委員会メンバーが編集委員となって復刊することとなった。

図書館報の誌名については、電子掲示板で教職員に公募し、図書委員会で検討した結果、女学院に縁のある「要」(かなめ)という名前に決まった。

カラー刷りの第1号が11月末に完成し、図書

館内や学生ラウンジに置いて自由に取ってもらっている。

## 8. ILL相殺制度に加盟

2003年度秋より検討を重ね、会計課、教務課との相談を数回行った末、2004年4月から相殺制度の加盟に踏み切った。

事務的にはかなり煩雑になるデメリットはあるが、経費削減及び利用者の便というメリットの方を優先した。

## 【長崎大学附属図書館】

### 事務組織の改編及び名称の変更

平成16年4月、国立大学法人化に伴い、事務局に「図書館部」を設置、係から班体制に変更され、情報管理課、情報サービス課に班長・主査をおいた。

### 日・祝日開館開始

医学分館では、16年4月から日曜・祝日を開館した。

### 携帯電話による図書館情報サービス開始

16年4月から携帯電話を利用したOPAC検索および開館時間、休館予定等が確認できるサービスを開始した。

### 幕末・明治期日本古写真を展示

平成16年5月20日～22日の3日間、長崎市内ブリックホールで開催された「日本実験動物科学・技術ながさき2004」において、「幕末・明治の生活空間への旅—長崎・各地・風俗—」というテーマで古写真パネル70点を展示した。

日本国内はもとより、韓国、中国、台湾・フィリピン等から合わせて1,000名以上が参加し、日本における近代化の諸相を映し出した貴重な映像を堪能された。また、日本とアジア諸国との連携の一助となることができた。

### インターンシップ実施

平成16年8月2日から6日までの5日間インターンシップ(就業体験)が実施され、2名の女子大学生を受け入れた。

### 図書館資料収集方針・基準・手順の策定

図書館資料収集方針・基準・手順を定め、収集の体制を整えた。特に、シラバス掲載図書を重点的に収集するなど、学生用図書の選書方法の大幅な見直しをおこなった。

### オープンキャンパス

平成16年8月19日(木)に開催された長崎大学オープンキャンパスに伴い、附属図書館において「幕末・明治写真で見る長崎～今と昔」と題して当館所蔵の古写真15点を選定し、併せて現在の写真を展示して、長崎の今と昔を入館者に紹介した。

### 図書館報のニックネーム変更

図書館報の新たなニックネームを募集し、「和華蘭の窓」に決定した。なお、和華蘭(わからん)とは、日本(和)、中国(華)、オランダ(蘭)の混合した文化様式をいう長崎の固有の表現。平成16年9月発行(92号)から変更した。

### 企業支援による学生用図書購入助成プロジェクト

平成15年度に引き続き、16年度も長崎大学に関係した企業からの寄付金により学生用図書を購入した。

### 全学教育支援図書コーナー

中央図書館では、全学教育講義を資料面から支援することを目的として、長崎学(郷土資料)、平和及び福祉、ボランティアに関するコ

一ナーを新設した。

### クリアファイルの制作・販売

当館が所蔵する貴重資料の幕末・明治期日本古写真コレクション及びグラバー図譜のうち6点を利用して、長崎大学生生活共同協同組合がクリアファイルを制作し、16年10月1日から販売を開始した。

### 長崎大学（附属図書館）公開講座開催

平成16年10月23日～11月13日の毎週土曜日の4日間、計8回にわたり公開講座「長崎唐人屋敷の変遷」を長崎大学環境科学部講義室を主会場として、長崎大学附属図書館岡林館長をはじめとする7名の講師により開催し、38名の受講者があった。

## 【福岡教育大学附属図書館】

### 国立大学法人化に伴う組織改編

平成16年4月1日に全国の国立大学と同様に新生「国立大学法人福岡教育大学」が発足しました。

これに合わせて、福岡教育大学附属図書館は次のように組織改編されました。

◎ 副学長（図書館担当）←附属図書館長

附属図書館長

◎ 附属図書館運営部会

←附属図書館運営委員会

◎ 情報管理課長←図書館事務長

◎ 管理係（庶務・会計）←総務係

◎ 図書館資料係（図書・雑誌受入）

←図書情報係

◎ 図書館サービス係（利用支援）

←情報サービス係

\* 雑誌情報係は、契約事務一元化により、削減となり、図書館資料係が事務の一部を引き継いでいます。

さらに、情報管理課において大学の情報関連を所掌することとなり、次のように情報管理課内に2係新設されています。

◎ 業務電算推進係

◎ 情報処理センター係

また、情報部門の強化のため、12月1日付けにて

唐人屋敷は現在の長崎市内にあり、鎖国時代に長崎出島と共に海外に開かれていた窓口であり、中国からの知識は長崎の「唐人屋敷」を通して全国に拡がり、伝わった文化は現在も私たちの生活に密着している。

このような観点から「唐人屋敷」を多面的に考える公開講座を開催した。

### 医学分館所蔵貴重資料展示会開催

医学分館を主会場として、平成16年11月11日～23日までの13日間、坂本キャンパス4会場において、医学部学園祭と連携して日本の近代医学が長崎に興り発展してきた歴史を示す多くの史料を公開する医学分館所蔵貴重資料展示会「医学は長崎から」を開催した。医学分館では498名の来場者があった。

◎ 情報企画専門員

が新設され、新規採用も1名加わりました。

以上、これまで同様よろしくお願ひします。

### 会議開催

今年度は、次のように本学が当番で会議を開催しました。

○ 第34回 九州地区国立大学図書館協会総会  
4月22日（木）

○ 平成16年度 九州地区大学図書館協議会総会  
4月23日（金）

○ 全国教育系大学図書館協議会総会  
10月21日（木）22日（金）

主テーマ：法人化後の教育系大学図書館の運営

○ 九州地区国立大学図書館実務者連絡会議  
11月18日（木）19日（金）

○ 福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会（第2回）

平成17年1月28日（金）予定

なお、各概要については、「全国教育系大学図書館協議会総会」を除いて、本誌「図書館活動報告」内と「総会記録」を参照してください。

## 【宮崎大学附属図書館】

### 自己点検・評価報告

これまで、平成6年3月、平成9年2月、平成13年3月に自己点検・評価報告書を作成し、今回の発行は4回目となる。本報告書は、旧宮崎大学と旧宮崎医科大学の実状と問題点を整理したものが中心となっている。点検・評価項目として、1. 教育・学生支援に関する事項、2. 研究者支援に関する事項、3. 社会連携に関する事項の3つを重点項目とした。

### 中期目標・中期計画

本学の中期目標・中期計画にかかる図書館の事業計画を、上述の重点項目にそってまとめると、以下のとおりとなる。

#### 1. 教育・学生支援

学生用図書の選定方針の策定、オンラインレ

ファレンス、学習スペースの改善など

#### 2. 研究者支援

研究に必要な図書（電子ジャーナルを含む）の充実度や必要度の調査

#### 3. 社会連携

県内の大学図書館及び公共図書館の相互利用の促進など

学生用図書及び電子ジャーナルについては、附属図書館運営委員会の下に、それぞれの選定や充実のための方策の検討などを行う専門委員会を発足させ、審議を行っている。

附属図書館では、中期目標・中期計画にかかる年次毎の事業計画を計画どおり実施することにより、附属図書館の改善につながるよう努めていきたい。

## 【琉球大学附属図書館】

### EU資料展を開催

5月12日から5月24日の14日間、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好週間イベントとしてEU資料展を開催した。この友好週間イベントは、2000年の九州・沖縄サミットをきっかけに始まったもので、毎年5月、EUに関する理解を深めるために文化、スポーツ、学術及び文化などの交流イベントが全国各地で行われる。

今回、琉球大学附属図書館がEU資料センターに指定されていることから沖縄県内の研究者や利用者に関心をもってもらうために、教官の協力のもとEUを紹介する出版物や統計関係資料など約100点を展示した。

沖縄では初めての交流イベントであったが、県内の高校生や一般市民も含めて約400名の参加者があった。会場では、EUを紹介する漫画「EUとユーロ」、広報誌「Europe」、各種パンフレット、EUグッズのほか、友好週間の「絵画コンクール」小学校低学年部門で入賞した沖縄の小学生のポストカードなどのEU紹介資料を配布し好評であった。

アンケート結果からは、「拡大EUに関する情

報を身近に感じられて良かった」などの意見が多く、EUに対する関心が高いことがうかがわれた。

### 公共図書館との地域連携事業

11月16日から21日までの6日間、本年8月に新規開館した西原町立図書館において貴重書展を開催した。この展示会は所蔵する貴重な史料等を広く一般の人々にも紹介する目的で継続開催しているもので、今回は「内と外からみた琉球」をテーマとした。

首里王府の編纂した「おもろさうし」や「異本王代記」など、琉球を内側からの視線でみた史料と、清国から琉球国王の叙任のため1756年に派遣された冊封使・周煌の漢詩が掛板に仕立てられた「周煌の掛板」など、中国、朝鮮、東南アジア、日本などの外側からの視線でみた史料約35点の貴重書を展示した。学外での貴重書展は4回目で、公共図書館との連携による開催は2回目である。小中高校生をはじめ郷土史研究者など1,000人を越える見学者があった。

アンケート結果からは、日頃みることのない沖縄の歴史・文化の貴重史料を見ることが出来



てよかったと喜ぶ声が多かった。

### 中学生・高校生の図書館就業体験

就業体 として、 月 日に真志喜中学の生徒 名を、7月22日 23日の 日間は普天間校の生徒 名を受入れた。中学生は、①資料の整理業務②カウンター業務③検索 夏休みの宿のテーマの資料を検索して図書を探す 等、校生は①資料の受入目録装備②資料の整理業務③カウンター業務④検索等を体 した。

実習後の図書 職員との懇談会では、「楽しかった」、「思っていたより大変だった」、「本を並べるのに沢山あると大変だと思った」、「本の貸し出しだけでなく、いろんな仕事があったので いた」、「図書 の仕事は体 する前と後ではギャップがあった」などの意見があった。中学生も 校生も最初は緊張した様子だったが、

それぞれの仕事に真 目な態度で実習に取り組んでいた。

### JICA研修員への図書館利用案内

月27日 月 と10月 日 月 の 日間、琉球大学で受け入れているインド、イラン、ラオスなどから受け入れたJICA研修員への図書利用案内を行った。

月27日は「森林土壌研修コース」の 名、10月 日は「教育者のためのIT研修コース」の12名で、 内を歩きながら資料を紹介する 内ツアーのほかに、研修員の専門分野にあった検索システムを紹介し、パソコンを使用してデモンストレーションや実習を行った。研修員からは本の貸出方法や学外からの検索システムの利用方法、その他図書 を活用するための質問があった。

# 図書館活動報告

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会

### 【総会】

日 時：平成16年5月28日(金)  
13：30～16：30

場 所：西南女学院大学 6号館1階会議室

当番館：西南女学院大学図書館

出席者：38館50名

#### 協議事項

- (1) 平成15年度決算および監査報告
- (2) 平成16年度事業計画および予算案審議

#### 地区研究会報告・質疑

- (1) 北部地区 産業医科大学図書館
- (2) 福岡地区 西南学院大学図書館
- (3) 南部地区 佐賀大学附属図書館

#### 講演

演 題：「生涯学習社会と大学図書館の役割」

講 師：(財)福岡県人権啓発情報センター館長、(財)集団力学研究所所長  
安藤 延男氏

#### 報告事項

加盟館の館名変更 5館

#### 平成16年度理事館および監事館の選出

理事館：西南学院大学図書館

監事館：九州産業大学図書館

### 【北部地区研究会】

#### 第1回研究会

日 時：平成16年7月6日(火)  
13：30～16：30

場 所：西南女学院大学 6号館1階会議室

出席者：14館22名

#### 議 事

- (1) 平成15年度会計決算報告及び監査報告
- (2) 平成16年度予算(案)審議
- (3) 承合事項
  - ① 「北九州地区大学図書館利用案内」の変更について
  - ② 図書以外の持込について
  - ③ 督促について
  - ④ 大学院生に対する図書館利用について

て

- ⑤ 図書館ボランティアの導入について

- (4) 平成16年度研究テーマについて

「見直そう！利用者サービス」

#### 事例発表

「看護学科におけるガイダンスの取り組みについて」

西南女学院大学図書館司書

一木 由美子氏

#### 講演

演 題：「学生をどう理解するか？」

－対応が困難な学生への理解と関わり方について－

講 師：西南女学院大学カウンセラー

金城 志麻氏

#### 第2回研究会

日 時：平成16年10月29日(金)

13：30～16：30

場 所：九州共立大学自由ヶ丘会館 3階小会議室

出席者：12館19名

#### 議 事

- (1) 表彰者について

- (2) 承合事項

- ① ILL文献複写等料金相殺サービスについて

- ② レファレンス・データベースについて

- ③ 図書(教員研究図書)の入手期間短縮について

- ④ 館内における文献複写料金の事務処理の方法、手順について

#### 事例発表

「レファレンスカウンターを開設して」

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館  
課長補佐 土井 富美子氏

#### 講演

演 題：「レファレンスライブラリアンの視点から利用者サービスを見直す」

講師：九州女子大学・九州女子短期大学  
附属図書館長 高橋 昇氏

### 第3回研究会（予定）

日時：平成17年2月4日（金）

13：30～16：30

場所：九州歯科大学

議事

- (1) 表彰について
- (2) 協議事項・承合事項
- (3) その他

講演

演題：「8020研究からわかった口腔と全身の関係」

講師：九州歯科大学附属図書館長

高田 豊氏

平成17年度当番館の確認

### 【福岡地区研究会】

#### 第1回研究会

日時：平成16年9月17日（金）

13：30～16：30

場所：九州情報大学 太宰府キャンパス

2号館 263教室

出席者：14館（25名）

講演

『資料保存と利用 —資料保存活動を通して利用を考える—』

福岡教育大学附属図書館 情報管理課長

栗山 平

図書館の環境づくりとして、魅力ある図書館形成、課題の解決、宣伝、企画などの工夫、資料の充実、収集と保存、学習し易い環境、需要に応じたサービスの提供が必要である。収集、保存、利用機能の3要素が魅力ある図書館にするための基盤となる。図書館にとって大切な資源である資料の保存と提供のために資料保存研修会が必要となった。成果として、劣化対策、展示、ガイドライン作成、利用のための保存意識の向上、次代への資料保存対策の足掛かりなどが得られた。資料保存と利用者の関心をひく図書館づくりが利用促進に通じる。研修会は、今後の継続が課題となってくる。図書館職員は、資料保存だけでなく、あらゆる情報の収集、図書館の環境など利用機能の充実を図ることが利用の促進に

繋がる。

承合事項

1) 長期休業中における図書館利用活性化の対策について

（提出館：中村学園大学図書館）

2) 外国雑誌の購入と製本について

（提出館：九州情報大学附属図書館）

協議事項

図書館利用の促進について

（提出館：九州情報大学附属図書館）

利用者増加のためにそれぞれの大学が施設や環境面および運用上の充実を図っている。利用者増に向けた工夫として、開館時間の延長、図書館ツアーの実施、講習会や利用案内・説明会等の開催、新入生へのガイダンス、視聴覚資料の充実、図書館報やニュースレターの発行と配布、利用者友の会などを結成し学生や教員との意見交換の場を設けること、などを実施することにより、多くの図書館が活性化とサービスの強化に努めている。

図書館職員が利用促進をPRするだけでは不十分である。教員に働きかけ、授業の中で図書館の活用を呼びかけてもらうことは非常に効果的である。いかに教員の協力を得られるかが大きな課題である。

### 【南部地区研究会】

#### 第1回 研究会

日時：平成16年9月29日（水）

13：30～16：00

場所：久留米工業高等専門学校 専攻科棟  
大会議室

当番館：久留米工業高等専門学校

出席者：11館17名

【研究テーマ】

図書館と著作権法との関わり（提出館：西九州大学附属図書館）

【協議事項】

図書館業務に係る人権問題について（提出館：九州大谷短期大学図書館）

【講演】

「ことばの難しさ・おもしろさ」

講師：久留米工業高等専門学校図書館長

天藤勝教授（一般文科：英語）

**【承合事項】**

- ・視聴覚資料の貸出等について（提出館：九州龍谷短期大学図書館）
- ・購入雑誌の選定方法について（提出館：久留米工業高等専門学校図書館）
- ・電子ジャーナル・データベースの導入状況について（提出館：久留米工業高等専門学校図書館）

**【その他】**

次期当番館の確認

**第2回 研究会（予定）**

日 時：平成16年12月15日（水）

場 所：久留米大学御井図書館 AVホール

当番館：久留米大学御井図書館

出席者：11館17名

**【研究テーマ】**

図書館のWebサービスについて（提出館：久留米大学御井図書館）

**【協議事項】**

平成17年度研究テーマについて

- (1) 書架の有効的な利用方法について（提出館：有明工業高等専門学校図書館）
- (2) ILL相殺サービスについて（提出館：久留米工業大学図書館）
- (3) 大学図書館と地域貢献について（提出館：佐賀大学附属図書館）
- (4) 図書館業務に係る人権問題について

（提出館：佐賀短期大学附属図書館）

- (5) 図書館と著作権法との関わりについて（提出館：西九州大学附属図書館）

**【講 演】**

「図書館と著作権について」

講師：久留米大学法学部 大家重夫教授

**【承合事項】**

- (1) ILL文献複写の一枚あたりの単価について（提出館：有明工業高等専門学校図書館）
- (2) AV資料予算の割合等について（提出館：九州大谷短期大学図書館）
- (3) 図書館のバリアフリーについて（提出館：佐賀大学附属図書館）
- (4) 新聞記事のデータベース所蔵の有無、名称並びにビデオ購入について（提出館：佐賀女子短期大学）
- (5) 研究業績のデータベース化について（提出館：久留米大学医学図書館）

**【その他】**

平成16年度南部地区研究会まとめ

**【総 会】**

- (1) 平成16年度決算
- (2) 平成17年度予算（案）及び事業計画（案）について
- (3) 平成17年度幹事館及び当番館の選出
- (4) そ の 他

**長崎県大学図書館協議会****【総 会】**

日 時：平成16年5月18日（火）

14：00～16：15

場 所：長崎ウエスレヤン大学

出席者：13館24名 オブザーバー（県立長崎図書館1名）

議 事：

- (1) 平成15年度事業報告
- (2) 平成15年度決算報告・監査報告
- (3) 平成16年度事業計画（案）
- (4) 平成16年度予算（案）
- (5) 総会当番校の順番について
- (6) 役員館の選出について

報告事項

- (1) 平成16年度研修企画委員について

- (2) 各館の当面する諸問題について

**【平成16～17年度役員館】**

代表幹事館 長崎大学

幹 事 館 長崎国際大学

長崎女子短期大学

監 査 館 長崎純心大学

**【研修事業】**

- (1) 研修会①（大学・公共図書館職員の間合同研修会）

日 時：平成16年9月13日（月）

13：00～16：00

場 所：活水女子大学・短期大学第1情報処理室

テーマ：「インターネットを利用した学術  
情報データベースの使い方」

講師及び演題

- ・金丸明彦氏（長崎大学附属図書館主査）  
「主な学術情報データベースの紹介と情報検索の実習」
- ・橋本要氏（県立長崎図書館主事）  
「県立長崎図書館ホームページの紹介と蔵書検索の実習」

参加者：70名

研修会②

日 時：平成16年10月22日（金）  
14：00～17：00

場 所：長崎大学附属図書館

テーマ：① 「県内紀要掲載長崎関係論文  
データベースの構築」

② 「県内大学共同利用電子ジャーナルの利用拡大」

講 師：長崎県大学図書館協議会研修企画  
委員

- ・飯島 芳典氏（長崎国際大学）
- ・岩崎 由希子氏（長崎純心大学）
- ・下田 研一氏（長崎大学）
- ・森 茂樹氏（活水女子大学）

参加者：20名

(2) 講演会① 長崎大学附属図書館と共催

日 時：平成16年2月6日（金）  
15：00～17：20

場 所：長崎大学附属図書館

演 題：「学術情報流通における海外連携

と海外発信」—図書館間相互貸借  
と国際学術情報流通基盤整備事業—

講 師：大場高志氏（国立情報学研究所開  
発・事業部コンテンツ課長）

参加者：34名

講演会② 長崎大学附属図書館と共催

日 時：平成16年12月7日（火）  
15：30～17：00

場 所：長崎大学附属図書館

演 題：「米国の大学図書館における学習  
教育活動の支援：アールム・カレ  
ッジとミシガン大学の事例のもと  
に」

講 師：長澤多代氏（長崎大学教育開発機  
能センター助手）

参加者：20名

講演会③

日 時：平成17年1月21日（金）  
14：00～17：00（予定）

場 所：長崎大学附属図書館

演 題：未定

講 師：国立情報学研究所

講演会④ 長崎大学附属図書館と共催

日 時：平成17年2月（予定）

場 所：長崎大学附属図書館

演 題：未定

講 師：植松貞夫氏（筑波大学附属図書館  
長）

## 熊本県大学図書館協議会

熊本県大学図書館協議会セミナーおよび実務者  
研修会

1. 期 日：平成16年10月8日（金）
2. 場 所：熊本学園大学付属図書館 AVホー  
ル（地下1階）
3. 日 程 等  
10：00～10：20  
受付（地下1階AVホール入口）  
10：20～10：30  
開会（挨拶、オリエンテーション、参加  
者自己紹介）  
10：30～12：00 セミナー（講演）

演題 「図書館をもっと身近に」

講師 梶谷 尚氏（崇城大学図書館館  
長）

12：00～13：30 昼食（情報交換等）

13：30～15：30

実務者研修（講演、質疑応答・意見交換  
等）

演題 「大学所蔵資料のデータベース化  
について」

講師 関口 正春氏（京都精華大学企画  
室）

15：30 閉会

## 大分県大学図書館協議会

### 1. 総 会

日 時：平成16年8月10日(火)

15:00～17:00

場 所：大分県立看護科学大学 管理棟3階  
中会議室

当番館：大分県立看護科学大学図書館

出席者：18名

協議題

- ① 平成15年度事業報告及び決算報告について
- ② 平成16年度事業計画及び予算(案)について
- ③ 大分県大学図書館協議会会則に関する申し合わせの一部改正について
- ④ 大分県大学図書館間相互利用実施要項(別表)の一部改正について
- ⑤ 大分県大学図書館蔵書検索システムの構築について(継続)
- ⑥ 各館の文献複写業務の体制について

⑦ 平成17年度役員館並びに当番館について

講演会

演 題：「私のメモの生かし方」

講 師：高 橋 敬 大分県立看護科学大学生体科学研究室教授

### 2. 研 修 会

日 時：平成17年1月又は2月(予定)

場 所：大分県立看護科学大学

出席者：9館20名(他に公立図書館の希望者10名を予定)

講演会

① 演題：未定

講師：未定

② 演題：大学附属図書館間の文献複写業務について(予定)

講師：若林 薫 大分大学総務部学術情報課情報サービス係長

## 宮崎県大学図書館協議会

### 1. 第11回宮崎県大学図書館協議会総会

日 時：平成16年7月23日(金)

13:30～16:00

場 所：宮崎産業経営大学 1号館3階会議室

出席者：11館21名(うち県立図書館1名)

議 事

- (1) 平成15年度決算報告及び監査報告について
- (2) 平成16年度事業計画及び収支決算について
- (3) 協議事項
  - ① 公共図書館と大学図書館の相互貸借について
- (4) 承合事項
  - ① 電話による貸出更新の実施状況及び問

題点

② 郵送による返却受付の実施状況及び問題点

③ 利用者による本のページの抜き取りについて

(5) 次期役員館について

### 2. 講 演 会

日 時：平成16年10月26日(火)

13:30～15:00

場 所：宮崎産業経営大学 1号館1階1101講義室

演 題：川端康成と宮崎

講 師：渡辺綱纜(宮崎産業経営大学附属図書館長)

## 鹿児島県大学図書館協議会

### 1. 第25回鹿児島県大学図書館協議会総会

日 時：平成16年5月25日(火)

13:30～15:30

場 所：第一工業大学 都築教育学園法人本部 7階会議室

出席者：加盟10大学、1高専及びオブザーバ

- 一館 計26名
- 議 事
- (1) 平成15年度会務報告
  - (2) 平成15年度決算報告及び監査報告
  - (3) 平成16年度事業計画
    - 1) 研修委員会について
    - 2) 会報編集委員会について
  - (4) 平成16年度予算審議
  - (5) 報告事項
    - ・国立大学法人化後のILLの対応について
  - (6) その他
    - 1) 館長懇談会（仮称）の設置について
    - 2) 鹿児島純心女子短期大学の横断検索システムの中止について
    - 3) 予備費の有効活用について
    - 4) 長時間の読書にも適する調度品（机、

- 椅子等）の装備について
- 5) 送り付けの図書及び悪質な押売に対する対策について

## 2. 平成16年度鹿児島県大学図書館協議会講演会及び研修会

テーマ：「大学図書館のパラダイムシフト」  
講演会 演題：「大学図書館の新しい潮流」

講師：石井保廣（九州大学附属図書館 事務部長）

研修会 ・新しい大学図書館の機能と運営  
・情報リテラシー教育のあり方

日 時：平成16年11月29日(月)

13：30～17：00

場 所：鹿児島大学附属図書館 5階AVホール

## 沖縄県大学図書館協議会

### 1. 平成16年度（第32回）総会

日 時：平成16年7月8日(木)

14：30～15：30

会 場：沖縄女子短期大学

出席者：9館45名

議 題：

平成15年度決算報告について

平成15年度監査報告について

新規加盟館（沖縄工業高等専門学校）の承認について

会則の改正について

平成16年度事業計画について

平成16年度予算について

平成17年度の当番館及び平成16年度の監査館選出について

### 2. 講習会

(1) 平成15年度第3回講演会

日 時：平成16年2月12日(木)

15：00～17：00

演 題：「大学図書館（員）の教育・学習支援を通じた大学改革への挑戦」

講 師：永田秀一氏（亜細亜大学教授）

参加者：41名

(2) 平成16年度第1回講演会

日 時：平成16年7月8日(木)

15：40～17：00

講 演：「グリム兄弟と図書館」

講 師：稲福日出夫氏（沖縄国際大学図書館長）

参加者：47名

### 3. 研 修 会

(1) 平成16年度研修会

日 時：平成16年12月9日(木)

14：00～16：30

講 演：無線綴じ本の簡易製本の作り方

講 師：大湾ゆかり氏（沖縄県文化振興会修復士）

参加者：28名

## 第34回九州地区国立大学図書館協議会

日 時：平成16年4月22日(木)

13：30～17：00

会 場：福岡ガーデンパレス（福岡市）

出 席 者：11大学33名

○地区連絡館挨拶及び当番館挨拶

○協議事項

- (1) 文献画像伝送システム（DDS）利用促進WG（仮称）の設置について
- (2) ILLサービスの新たな環境と学術資料の共同保存に関する地域的な対応について
- (3) 法人化後の大学図書館経営について
- (4) 国立大学図書館協会の運営組織（委員会設置等）について
- (5) 九州地区国立大学図書館協会申し合わせの作成について
- (6) 九州地区国立大学図書館協会の代表館選出について
- (7) 国立大学図書館協会の運営について
  - 1) 第51回国立大学図書館協会総会のワークショップのテーマについて
  - 2) 文部科学大臣等に対する要望事項について
  - 3) 平成16年度国立大学図書館協会の理

事候補館の選出について

- 4) 国文学研究資料館の国立大学図書館協会への加盟について
- 5) 平成16年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について
- 6) 平成17年度九州地区国立大学図書館協会の当番館について
- (8) その他
  - 1) 法人化後の国立大学図書館職員の採用について
  - 2) 相互利用関係諸規定の整備について
  - 3) 九州地区大学図書館協議会の会費等について

○承合事項

- (1) 国立大学法人での附属図書館（館長、事務組織、財政基盤、財務会計システム等）の位置付けについて
- (2) 遡及入力及び資料の電子化の進捗状況と問題点について

### 平成16年度九州地区国立大学附属図書館館長、事務（部・課）長合同会議

日 時：平成16年11月24日（水）

15：00～17：15

会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール

出席者：11大学30名

議 事

・報告

(1) 理事会報告

(2) 事務（部・課）長会議報告

(3) その他

・協議題

(1) 図書館経営上の諸問題について

(2) その他

### 平成16年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成16年12月24日（水）

13：15～14：45

会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール

出席者：11大学20名

議 事

・報告

- (1) 理事会報告
- (2) 実務者連絡会議
- (3) その他

・協議題

(1) 図書館経営の効率化について

(2) 地域連携及び社会貢献の推進について

(3) 図書館業務の一部外部委託の導入について

(4) 17年度図書系職員採用試験について

(5) その他



## 平成16年度九州地区国立大学附属図書館協議会実務者連絡会議

日 時 平成16年11月18日(木)、19日(金)

会 場 福岡教育大学城山会

出席者 11大学12名

議 事

協議事項

(1) 外国図書購入価格について

生協が安価なマークアップ額を提案してくるなど、入手価格を安く抑えたい教員の要望と合致しており、現場としては安価に入手する方法を模索していきたいということであった。

(2) 法人化後の受入業務の現状と今後の課題について

財務会計システムは、九工大だけが独自に開発したシステムで、他大学は規制のシステムで運用している。図書システムの連携については、九大だけがシステムのカスタマイズを行い財務会計システム一連の流れの中で業務を行っており、他大学は、

ヶ月単位で財務会計システムへCSV形式等でデータ移し替えを行う等、支払から財務会計システムへ入っていき、予算管理と支払のタイムラグ、教員発注、立替払いなどについての問題点、発注管理を厳密に行わなければならない、年度末の繰越などが課題として挙げられた。

(3) 契約事務の一元化について

提案大学の福岡教育大学は、実施したが、他の大学では、実情はこれまでと変わっていないし、人員削減も行われていない。

承合事項

(1) 資産管理について

(2) 21世紀COEプログラム予算で購入した図書の扱いと管理方法について

(3) 法人化後の図書有形固定資産の除却について

(4) 固定資産の廃棄・処分について

# 事務局報告

## 平成16年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成16年12月21日(火)に、書面回議により別紙議題(資料1、2)通り開催の結果、意見等の申し出がなかったため、原案の通り承認されました。

### 資料1 平成17年度九州地区大学図書館協議会 実施計画(案)

[熊本大学附属図書館]

#### 1. 日程

平成17年4月21日(木) 一部会—

13:00~13:30 受付 ※部会毎に  
13:30~17:00 会議  
17:00~18:00 休憩  
18:00~20:00 懇親会(部会別)

※ 時間の割り振りは各部会の判断により  
設定可能

平成17年4月22日(金) 一総会—

9:00~9:30 受付  
9:30~12:00 会議  
12:00~13:00 昼食  
13:00~14:30 講演  
14:30~16:00 会議

#### 2. 会場

4月21日の各部会

ニュースカイホテル

熊本市東阿弥陀寺町2

TEL 096-354-2111

国立部会 3階 「飛鳥」

(懇親会25Fレオドール)

公立部会 3階 「弥生」

(懇親会24FスアキホールA)

私短部会 6階 「すいしょうB」

(懇親会24FスカイホールB)

ホテルニューオータニ熊本

熊本市春日1丁目13番1号

TEL 096-326-1111

私立部会 3階 「鳳凰A」

(懇親会鳳凰B)

4月22日の総会

ニュースカイホテル

熊本市東阿弥陀寺町2

TEL096-354-2111

3階 「玉樹A」(中食玉樹B)

講師控え室 3階 [弥生]

#### 3. 宿泊

[案内施設] ニュースカイホテル

ホテルニューオータニ熊本

##### ① 部屋の確保

シングル 70室 50室

ツイン 25室 無

##### ② 宿泊料(1泊朝食付き、税込み)

シングル 8,000円

9,500円(朝食無8,000円)

ツイン 7,500円 無

#### 4. 経費等

##### ① 会議室借料

・21日の各部会室借料 各部会負担

・22日の総会室借料 総会費用充当

・その他(看板、生花、マイク等)

総会費用充当

##### ② 資料作成費(経費節約する)

##### ③ 懇親会費

ニュースカイホテル

5,000円(税込み)

ホテルニューオータニ熊本

私立部会と交渉中

##### ④ 22日(総会)の昼食費等

昼食、1,500円(お茶、吸物付き)

(21日の部会受付時に徴収)

##### ⑤ その他、各部会の必要

#### 5. その他

① 部会の会議及び懇親会は、私立大学の部

- 会をホテルニューオータニ熊本で行い、その他は、ニュースカイホテルで行う。
- ② 各部会の会議室のレイアウトは、それぞれ部会による。
  - ③ 総会の会議室のレイアウトは、スクール方式とする。
  - ④ 宿泊予約は、宿泊者が直接ホテルに申し込む。
  - ⑤ ニュースカイホテル、ニューオータニ熊本のパンフレット及び熊本県の観光パンフレットは、各部会を通じて加盟館に送付予定。
  - ⑥ 22日の昼食は、総会会場で弁当（吸物、お茶）配付。
  - ⑦ 総会会場のお茶・コーヒーは、会場内の後方に一括準備する。
  - ⑧ 総会の議長・副議長のみ、おしぼり、ペットボトルを準備する。
  - ⑨ 総会の講演者等は、未定。
  - ⑩ 駐車場について
    - ・ニュースカイホテル 120台可能だが、出来るだけ公共交通機関を利用。  
1泊 700円
    - ・ホテルニューオータニ熊本 70台可能。  
1泊 1,000円。会議だけで4時間までは無料。その後1時間毎に100円。

これまでの取り組み（メモ）

- ① 平成16年5月20日(木)当番館の打ち合わせ
  - ・日程について 平成17年4月21日(木)に各部会、22日(金)に総会とし、幹事館に諮ることとする。
  - ・会場について ニュースカイホテル、ホテルニューオータニ熊本を候補会場とし、参考見積を取り、提案することとする。崇城大学と熊本大学で総合的に検討し判断することとした。
  - ・懇親会を合同で行うか。従前通り各部会ごと行う。
- ② 平成16年6月7日(月)崇城大学と熊本大学打ち合わせ
  - 会場調べの参考見積等で検討を行った。
  - ・私立部会は、ホテルニューオータニ熊本で行いたい。
  - ・総会及び国立部会は、ニュースカイホテルで行いたい。
  - ・公立部会及び私立短大部会は、資料を送付し検討してもらおうこととする。
- ③ 平成16年6月10日(木)幹事館より連絡
  - 国立部会及び総会は、ニュースカイホテルでの開催が認められる。
- ④ 平成16年6月11日(金)部会幹事へ照会する。
  - 私立部会、公立部会、私短部会の当番館へ会場決りを6月30迄回答するように照会をする。
- ⑤ 平成16年6月30日(水)回答を得る。
  - ・私立部会は、ホテルニューオータニ熊本
  - ・公立部会及び私短部会は、ニュースカイホテル
- ⑥ 平成16年8月6日(土)引継を受ける。(福岡教育大学、堀田係長から)
- ⑦ 平成16年9月17日(金) ホテルパンフレットを受領
  - ・ニュースカイホテル 150部
  - ・ホテルニューオータニ熊本 100部
- ⑧ 平成16年11月1日(月) 崇城大学にパンフレットを渡す。
  - ホテルパンフレットを50部渡した。
- ⑨ 平成16年12月17日(金)
  - 私立部会の会議が開催される。

## 資料

### その他

講演、協議事項等について

何か意見等がございましたら、お知らせください。

なお、協議事項等は別途当番大学から照会予定です。

副議長について

総会における議長及び副議長は、平成年度からの副幹事 制度の発足により、副議長は副幹事 の図書 長により次の順番で執り行われている。

- ・平成11年度 福岡女子大学附属図書 長  
公立大学部会副幹事 長
- ・平成12年度 児島国際大学図書 長  
私立大学部会副幹事 長
- ・平成13年度 沖縄キリスト教短期大学図書 長  
私立短大部会副幹事 長
- ・平成14年度 福岡教育大学附属図書 長  
国立大学部会副幹事 長

・平成15年度 宮崎公立大学附属図書 長  
公立大学部会副幹事 長

・平成16年度 筑紫女学園大学・短期大学附属図書 長  
私立短大部会副幹事 長

以上の経緯から、平成17年度の副議長については私立大学部会副幹事 の図書 長にお願いしたいと思います。

副幹事 等の交代について

平成17年度は、副幹事 の交代 年間 の年にあたっていますので各部会で、検討をお願いします。

なお、毎年お願いしています表彰委員

・編集委員 の検討もあわせてお願いします。

平成18年度の総会は南部地区宮崎県・児島県・沖縄県の当番で、国立大学部会の当番 は、屋体育大学 児島県 に内諾をいただいていますので、各部会でも当番 をお決めになるときは、考慮していただくようお願いいたします。

# 第 55 回 九州地区大学図書館協議会総会

## 日 程 表

期 日 平成 年 月 日 金

会 場 福岡ガーデンパレス 階 ガーデンホール  
〒 810-0001 福岡市中央区天神 4-8-15  
TEL(092 713 1112

日 程 受付開始  
開 会  
当番 長挨拶  
幹事 長挨拶  
会議日程・資料の説明  
議長・副議長選出  
議長・副議長挨拶  
新任 長等紹介  
表 彰 式  
新規加入 の承認  
幹事 報告  
平成 15 年度決算及び監査報告  
平成 16 年度予算案  
国立・公立・私立・私立短期大学部会報告  
昼 食  
講 演  
講師 有限会社資料保存器材 代表 木部 徹 氏  
演題 研究図書 における資料保存の現在 海外では、  
日本では  
協議事項  
承合事項  
次期役員 の選出  
次期当番 挨拶  
議長・副議長の解任  
閉 会

出席者名簿 ○は新任者

【国立大学】

九州工業大学附属図書

長  
事務長

○前田 博  
加治 淳一

宮崎大学附属図書

長  
学術研究協力部長  
情報図書課長

田村 智淳  
○吉良 知哲  
○小川 稔

九州大学附属図書

長  
事務部長  
情報管理課長  
情報サービス課長  
情報システム課長  
情報管理課長補佐

○今西 裕一郎  
石井 保廣  
濱 修一  
○片山 淳  
○甲斐 重武  
○菊池 重良

児島大学附属図書

長  
事務部長  
情報管理課長  
情報サービス課長

○早川 勝光  
森松 睦雄  
○渡邊 俊彦  
○吉田 英明

佐賀大学附属図書

長  
学術研究協力部長  
情報図書 課長

○小倉 幸雄  
○千葉 清人  
○金子 弘康

屋体育大学附属図書

長  
学術図書情報課長

○田口 信教  
田 昇平

長崎大学附属図書

図書 部長  
情報管理課長

安永 勉  
○益森 治巳

琉球大学附属図書

長  
事務部長  
情報サービス課長

前原 潤  
故選 義浩  
能勢 明雄

熊本大学附属図書

長  
学術情報課長

岩岡 中正  
○松藤 典生

福岡教育大学附属図書

長  
情報管理課長

○工藤 重矩  
○栗山 平

大分大学附属図書

長  
学術情報課長

○大羽 宏一  
○山寄 信広

出席館 11館 31名  
欠席館 なし

【公立大学】

北九州市立大学学術情報総合センター

事務課長  
学術情報係長

○吉野 光夫  
谷末 要一

福岡女子大学附属図書

長  
事務主査

田坂 憲二  
村山 博子

九州歯科大学附属図書

長  
事務長

田 豊  
長弘 謙一

福岡県立大学附属図書

長  
事務長

奥村 幸夫  
○笹田 彰

県立 崎シーボルト大学 属図書  
主 査 相澤 興一  
児島 琴美

宮崎公立大学 属図書  
事務 田中 薫  
柳瀬 敏典

崎県立大学図書情報センター  
所 柳田 芳伸  
係 山口 容子  
専 幹 山上 博子

宮崎県立看護大学 属図書  
主幹兼教務係 赤星 誠  
主 査 永野 宏  
○川添 哲也

熊本県立大学 属図書  
事務 永尾 孝  
桂 重則

児島県立短期大学 属図書  
副 前田 和平

大分県立芸術文化短期大学 属図書  
主幹兼図書 管理係 吉良 國光  
○姫野 綾子

沖縄県立看護大学 属図書  
主 幹 ○栗栖 瑛子  
盛島 明哲

大分県立看護科学大学 属図書  
管理係 小野 永子

沖縄県立芸術大学 属図書・芸術資料  
副参事 浅野 春男  
篠原 勝之

出席館 14館 28名  
欠席館 なし

### 【私立大学】

西日本工業大学図書  
図書課 宗広 明則

福岡工業大学 属図書  
事務 武 哲也  
係 坂本 祥嗣

西南女学 大学図書  
図書課 ○近 昭夫  
山田 寛

九州産業大学図書  
事務局 古賀 唯夫  
○山本 正三

九州国 大学図書  
事務室 ○甲斐 富美子

福岡大学図書  
池上 太郎  
学術情報課 中村 芳比古  
学術情報課 世戸 英

九州共立大学 属図書  
業務課 松尾 伸二

九州女子大学・短期大学 属図書  
図書 次 ○橋 昇  
○本田 丸

中村学園大学図書  
図書課 ○吉岡 慶子  
猿渡 健一

西南学 大学図書		崎総合科学大学 属図書	
情報サービス課課 補佐	古庄 敬文	図書課	伴 卓士
情報サービス課	岡 武史		
整理課係	坂口 久人	崎外国語大学・短期大学	
第一薬科大学図書		教育研究メディアセンターマルチメディア・ライブラリー	
事務職員	田中 昌昭	事務室係	川島 浩勝 岡村 泰
九州情報大学 属図書		崎純心大学早坂記念図書	
司 書	南 俊朗 藤 理恵子	室	片岡 瑠美子 岩崎 由希子
筑紫女学園大学・短期大学 属図書		崎ウエスレヤン大学 属図書	
課	小木野 一	司 書	植松 久子
課 補佐	浅井 博子 山本 鉄二郎	崎国 大学図書	
福岡国 大学・福岡女子短期大学図書		図書課	島 芳典
司 書	○小柳 親芳 大橋 祐子	崇城大学図書	
久留米工業大学図書		図書課	梶谷 尚 ○小野 泰弘
室 代理	木 征男 萩尾 文子	九州ルーテル学 大学図書	
久留米大学御井図書		司書係	水谷 江美子
図書課	西土 純一 樽見 徹男	熊本学園大学 属図書	
福岡女学 大学図書		事務次	○宇野 史郎 緒方 良二
課	増田 榮 佐田 ひろみ	九州東海大学付属図書	
西九州大学 属図書		図書課	築地 孝昭 岡村 晴夫 板東 弘
図書課	堤 慶征	課 補佐	
活水女子大学・短期大学図書		九州看護福祉大学 属図書	
図書課	○宮崎 広	事務局次	大部 徹
図書課主任	森 茂樹 安藝 真由美	日本文理大学図書	
		係	小平 正典



立命 アジア太平洋大学ライブラリー  
アカデミック・オフィス課 補佐 北村 滋朗

児島純心女子大学 属図書  
図書課 森山 学

九州保健福祉大学 属図書  
司 書 伊藤 倫子

志學 大学図書  
図書課 木佐貫 正

宮崎産業経営大学 属図書  
神尾 信

沖縄国 大学図書  
次 稲福 日出夫  
図書課 ○銘苺 盛徳  
新川 宣安

南九州大学・短期大学 属図書  
○土田 博  
学部部 兼図書課 中村 稔

沖縄大学図書  
事務 ○田里 修  
○野村 時子

児島国 大学 属図書  
事務 上村 俊  
○藤田 淳二

出席館 39館 68名  
欠席館 3館

### 【私立短期大学】

九州栄 福祉大学・東筑紫短期大学図書  
主任司書 ○山田 千秋  
小林 由憲

別府溝部学園短期大学図書  
田邊 勲

聖マリア学 短期大学図書  
司 書 行武 仁美

児島女子短期大学 属図書  
課 東郷 邦照

九州大谷短期大学図書  
主 任 梅野 智美

児島純心女子短期大学図書  
図書課 補佐 小川 孝夫  
西 眞知子

東九州短期大学図書  
司 書 釘丸 知子

出席館 7館 9名  
欠席館 3館

## 第 55 回 九州地区大学図書館協議会総会議事要録

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 開会のことば<br/>福岡教育大学情報管理課長<br/>栗山平</p> <p>2 当番館長挨拶<br/>福岡教育大学附属図書館長<br/>工藤重矩</p> <p>3 幹事館長挨拶<br/>九州大学附属図書館長<br/>今西裕一郎</p> <p>6 永年勤続者表彰<br/>九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき、21名が表彰された。</p> | <p>4 議長選出<br/>「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」の第2項により、当番館長を議長に選出した。<br/>続いて、副議長には副幹事館の筑紫女学園大学小木野館長が指名され、参加館の承認を得た。</p> <p>5 新任者紹介<br/>今回は新任者が多いため名簿に基づき確認のみ行われた。</p> |
|---|--|

(1) 勤続期間 20 年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第 2 条第 2 項）

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第 2 条第 2 項	鹿児島大学附属図書館	石原素子
2	〃	〃	土井潮子
3	〃	〃	吉田秀紀
4	〃	鹿屋体育大学附属図書館	的場章子
5	〃	九州大学附属図書館	井出公東
6	〃	〃	末信千代子
7	〃	〃	常岡正子
8	〃	〃	松田尚代
9	〃	熊本大学附属図書館	榎尾勝征
10	〃	〃	福島勲
11	〃	〃	簗原和秀

(2) 勤続期間 20 年に達した者（表彰規程第 2 条第 1 項）

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第 2 条第 1 項	鹿児島大学附属図書館	内門久美子
2	〃	〃	北原ゆみ子
3	〃	〃	渡邊俊彦
4	〃	熊本大学附属図書館	梅原慶子
5	〃	〃	中川智之
6	〃	〃	濱崎千雅
7	〃	〃	水本美智子
8	〃	西南学院大学図書館	坂口久人
9	〃	〃	丸田理栄子
10	〃	琉球大学附属図書館	上原恵子

- |  |   |
|--|---|
| <p>7 新規加入館の承認<br/>今年度は該当なし。</p> <p>8 幹事館報告<br/>幹事館の濱崎情報管理課長より次のとおり</p> | <p>報告があった。</p> <p>(1) 加盟館の数は、国立大学の統合合併等により、昨年は 80 大学であったが今年度は 77 学となった。</p> |
|--|---|

加盟館の内訳は次のとおりである。

国立大学 11 大学  
公立大学 14 大学  
私立大学 44 大学  
私立短期大学 8 大学

(2) 協議会誌について

協議会誌第46号を発行し、加盟館に送付した。

9 平成 15 年度決算報告及び監査報告  
幹事館の九州大学から決算(案)に基づき報告があった。続いて監査館の筑紫女学園大学・短期大学から監査の結果、収入・支出とも適切な処理がなされている旨の報告があり承認された。

10 平成 16 年度予算審議

幹事館の九州大学から、平成 16 年度の予算案について説明があり、承認された。

11 国立・公立・私立・私立短大各部会報告

(1) 国立大学部会報告

当番館の福岡教育大学から報告  
出席館は 11 大学 33 名

協議事項

- 1) 文献画像伝送システム(DD S)利用促進WG(仮称)の設置について
- 2) ILL サービスの新たな環境と学術資料の共同保存に関する地域的な対応について
- 3) 法人化後の大学図書館経営について
- 4) 国立大学図書館協会の運営組織(委員会設置等)について
- 5) 九州地区国立大学図書館協会申し合わせの作成について
- 6) 九州地区国立大学図書館協会の代表館選出について
- 7) 国立大学図書館協会の運営について
  - ① 第 51 回国立大学図書館協会総会のワークショップのテーマについて
  - ② 文部科学大臣に対する要望事項について
  - ③ 平成 16 年度国立大学図書館協会の理事候補館の選出について
  - ④ 国文学研究資料館の国立大学協会への加盟について
  - ⑤ 平成 16 年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について
  - ⑥ 平成 17 年度九州地区図書館協会総会

の当番館について

8) その他

- ① 法人化後の国立大学職員の採用について
- ② 相互利用関係諸規定の整備について
- ③ 九州地区大学図書館協議会の会費等について

承合事項

- 1) 国立大学法人での附属図書館(館長、事務組織、財政基盤、財務会計システム等)の位置付けについて
- 2) 遡及入力及び資料の電子化の進捗状況と問題点について
- 3) 料金体系について

(2) 公立大学部会報告

当番館の福岡県立大学から報告  
出席館は 14 大学 29 名

承合事項

- 1) 各大学における地方独立行政法人化の予定の有無及び図書館としての準備状況について
- 2) 図書館運営について
- 3) 蔵書点検について

(3) 私立大学部会報告

副幹事館の九州共立大学から報告  
出席者は 39 館 68 名

報告事項

- 1) 九州地区協議会関係
  - ・第 1 回定例幹事会
  - ・第 2 回手お礼幹事会
- 2) 九州地区大学図書館協議会関係
  - ・九州地区大学図書館協議会幹事館・副幹事館会議会務報告
- 3) 西地区部会関係
  - ・2003 年度西地区部会会務報告
  - ・2003 年度予算執行状況報告
  - ・2004 年度西地区部会事業計画(案)及び予算(案)
  - ・2004 年度西地区部会総会開催要領(案)
  - ・2004 年度西地区部会研究会概要(案)
- 4) 私立大学図書館協会関係
  - ・2003 年度協会会務報告
  - ・2003 年度協会賞・研究助成委員会審査

## 結果報告

- ・国際図書館協力委員会報告
- ・協会ホームページ委員会報告
- ・国公立大学図書館協力委員会報告
- ・会則第8条(総会)の改正(案)
- ・2004年度永年勤続表彰者
- ・2004年度事業計画(案)
- ・第65回(2004年度)総会・研究大会
- ・協会が発行する刊行物への広告掲載
- ・国際学術情報流通基盤整備事業(SPACE/JAPAN)の平成15年度成果と選定学会誌

## 協議事項

- 1) 九州地区協議会関係
  - ・2007・2008年度九州地区協議会の当番校の選出について
  - ・2007年度西地区部会研究会の当番校の選出について
  - ・2007・2008年度の研究会幹事校・研究発表ローテーション校の選出について
  - ・九州地区協議会のメーリングリストの運用について
- 2) 九州地区大学図書館協議会関係
  - ・平成16年度九州地区大学図書館協議会の役員校について

## 承合事項

なし。

## (4) 私立短期大学部会

当番館の筑紫女学園短期大学から報告  
出席館 22 館、欠席館 5 館、  
オブザーバー館 1 館

- 1) 退会館報告
- 2) 各館報告
- 3) 会長館報告(事業報告)
- 4) 平成15年度決算報告及び監査報告
- 5) 平成16年度事業計画(案)及び予算(案)審議
- 6) 協議事項
  - ・会長館の任期について

## 12 講演

「研究図書館における資料保存の現在  
—海外では、日本では」

講師 有限会社資料保存器材  
代表 木部 徹

## 13 協議題審議

今回は九州大学提案の「文献画像伝送システム(DDS)とILLサービスの新たな環境(著作権問題解決、料金相殺制度、国際ILL)への対応及び学術資料の共同保存に関する地域的な対応について」、九州大学より次のような提案理由の説明があった。

大学図書館間における資料の相互利用サービスにおいて、積年の課題であったファクシミリ等(インターネットを含む)による文献伝送に係る著作権問題がこの3月に解決した。これによって、文献画像伝送システム(DDS)やGIF(国際ILL:米国及び韓国・中国)の利用促進が図れる状況となってきた。また、NII(国立情報学研究所)の料金相殺制度が新たにスタートした。このような条件下、今後大学図書館間における相互利用サービスは充実させええると考えられる。

このため、九州地区の大学においてもこの制度への参加をお願いしたい。

一方、電子ジャーナルの利用拡大による冊子体の役割変化や自動書庫導入などの最近の動向は資料保存方法の見直しを迫る状況と言える。さらに、酸性紙問題に関連した学術情報の地域協同的な保存体制についても再考が必要となっている。

以上のような最新の動向を踏まえて、保存と利用面での地域的な検討が必要である。

また、DDSの現状、電子ジャーナルの利用拡大により資料保存方法の見直し等について報告があった。

これについて、私立大学部会から相殺制度への積極的参加を進めていく等の報告があった。

- 14 承合事  
次のとおり 件の提案があった。 回答別冊子
- (1) ブックディテクションシステムについて
- 1) ブックディテクションの導入はされていますか。
  - 2) タイプは何ですか。たとえば、ゲートのさ、バーが付いているか、仕様など
  - 3) 誤作動の度はどの程度ですか。
  - 4) どのようなもので誤作動がおきますか。
  - 5) 誤作動以外でブックディテクションに対する問はありませんか。
  - 6) これらの問に対してどのような対策をとっていますか。

九州情報大学提案  
宮崎大学提案

15 次期役員 の選出

幹事、副幹事は年任期の年目であり、平成 16 年度も引き続きということでおいをした。その他の役員は、次のとおり承認された。

幹事	九州大学
副幹事	
国立	佐賀大学
公立	北九州大学
私立	九州共立大学
私立短大	筑紫女学園大学・短期大学

監査 西南学 大学  
表彰委員

国立	熊本大学
公立	福岡女子大学
私立	志学 大学
私立短大	東九州短期大学

編 委員

国立	福岡教育大学
公立	九州歯科大学
私立	南九州大学
私立短大	西南女学 大学・短期大学

総会記事・編 事務は「九州地区大学図書協議会誌編 にする内規」の 2 の(2)による

総会記事	福岡教育大学
編 記事	九州大学
次期当番	熊本大学

16 次期当番 の挨拶

熊本大学の松藤学術情報課 から、次期当番 を引き受ける旨の挨拶があった。

17 会のことば

福岡教育大学情報管理課  
栗山 平

18 会

平成15年度決算(案)

一般会計

収入の部		支出の部					
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
会費	486,000	486,000	6,000円×81館	総会運営費	300,000	300,000	当番館：宮崎大学
協議会誌代	132,000	132,000	45号(2002)	協議会誌発行費	200,000	157,500	46号(2003) 200部
広告掲載料	200,000	260,000	16社	事務費	55,000	52,180	通信費、振り込み手数料等
				積立金会計へ繰入	263,000	368,320	総会関係研修事業補助
小計	818,000	878,000		小計	818,000	878,000	

積立金会計

収入の部		支出の部					
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	691,842	691,842		表彰経費	80,000	80,472	16名(1号該当9名、2号該当7名)
預金利子	20	12	6円×2回	研修会経費	100,000	103,660	総会講演謝金等
一般会計から繰入	263,000	368,320		研修会補助費	270,000	270,000	各県協議会(9地区)研修経費補助
				次年度繰越金	504,862	606,042	
小計	954,862	1,060,174		小計	954,862	1,060,174	
総計	1,772,862	1,938,174		総計	1,772,862	1,938,174	

平成16年3月26日

監査館 筑紫女学園大学・短期大学附属図書館

図書課長 浅井 博子 監査済

平成16年度予算(案)

一般会計

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
会費	462,000	6,000円×77館	総会運営費	300,000	当番館：福岡教育大学
協議会誌代	128,800	46号(2003) 800円×161部	協議会誌発行費	200,000	47号(2004) 200部
広告掲載料	200,000	12社	事務費	55,000	会誌送料、通信費、会議費等
			積立金会計へ繰入	235,800	総会関係研修事業補助
小計	790,800		小計	790,800	

積立金会計

収入の部			支出の部		
科目	予算	備考	科目	予算	備考
前年度繰越金	606,042		表彰経費	110,000	21名(1号該当10名、2号該当11名)
預金利子	20		研修会経費	100,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	235,800		研修会補助費	270,000	各県協議会(9地区)研修経費補助
			次年度繰越金	361,862	
小計	841,862		小計	841,862	
総計	1,632,662		総計	1,632,662	

## 九州地区大学図書 協議会会則

昭和25年11月27日施行  
昭和32年 月12日改正  
昭和41年 月 日改正  
昭和51年 月23日改正  
昭和55年 月 日改正  
平成 年 月25日改正  
平成10年 月24日改正

### 名 称

第 条 本会は九州地区大学図書 協議会と称する。

### 会 員

第 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書 をもって組織する。

会員は大学をもつて一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

### 目 的

第 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書 の施設、管理及び運営等の健全な  
進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

### 事 業

第 条 本会は前条の目的を達するためつぎの事業を行う。

図書 の研究・調査に関する事

研究会・講習会等の開催に関する事

日本図書 協会等の連絡提携に関する事

学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事

学術図書文献の収 、保存及び活用に関する事

その他必要とする事

### 役 員

第 条 本会に幹事 、副幹事 及び監査 を置く。

幹事 は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事 は、幹事 とともに会務を処理する。

監査 は、会計を監査する。

第 条 幹事 は、総会で互選し、その任期は 年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事 は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学からそれぞれ を総会  
で互選し、その任期は 年とする。但し、再選を妨げない。

監査 は、総会で互選し、その任期は 年とする。但し、再選できない。

### 事 務 所

第 条 本会の事務所は幹事 内におく。



## 会 議

第 条 本会は毎年 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 分の 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 条 総会の運営は、輪番に定められた当番 が幹事 と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事 を行う。

事業計画

決算の承認

予算の決定

幹事 、副幹事 及び監査 の選任及び当番 の決定

その他必要なる事 の決定

第 11 条 総会の票決権は 大学につき 票とし、議決は多数決による。

可否同数の時は幹事 の決するところによる。

## 会 計

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年 6,000円とし、毎会計年度始めに幹事 に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 月 日に始まり、翌年 月31日に終る。

## 会則変更

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 分の 以上の賛成を必要とする。

## 九州地区大学図書 協議会総会運営に関する細則

昭和32年 月12日決定

昭和37年10月 日改正

昭和48年 月11日改正

昭和53年 月12日改正

平成11年 月23日改正

本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。

総会の議長は当番 の 長とする。

議長は副議長を指名することができる。

当番 は幹事 及び副幹事 と協議の上、 ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事 ・承合事 の提出を求める招請状を送ること。

但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。

当番 は協議事 をまとめ、議 として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。

当番 は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。

7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

## 九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行

平成9年4月25日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
  - (1) 大学又は短期大学の図書館であること。
  - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

別記様式

## 九州地区大学図書 協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書 協議会 殿

大 学 名

図 書 名

図 書 長 名

公 印

下記の図書 は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

学 校 法 人 名

大 学 名

図 書 名

図 書 長 名

所 在 地

別記様式

## 九州地区大学図書 協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書 協議会 殿

大 学 名

図 書 名

図 書 長 名

公 印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

学 校 法 人 名

大 学 名

大 学 設 置 年

学 生 数

図 書 名

所 在 地

話、FAX番号

図 書 長 名

図 書 の 概 要 別 紙

紹 介 名

## 図 書 の 概 要

図 書 名					
事務責任者職・氏名	話番号				
図 書 職 員 数	人 内、司書数		人		
図 書 延 床 積	m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数		席	
蔵 書 冊 数	冊 内 和書		冊、洋書		冊
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 誌 種 数		種	
年 間 開 日 数	日	通 常 開 時 間		時 分	時 分
土 曜 開	実施		未実施		
日 曜 祝 日 開	実施		一部実施		未実施
奉 仕 対 象 学 生 数	人		奉 仕 対 象 教 職 員 数		人
年 間 貸 出 冊 数	冊				
図 書 相 互 協 力	図 書 貸 借	実施		未実施	
同 上	文 献 複 写	実施		未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	実施		未実施		
コ ン プ ュ ー タ の 導 入	導 入 済		未導入		
コ ン プ ュ ー タ の 適 用 業 務	貸 出	図 書 受 入	図 書 整 理	誌 管 理	OPAC
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	学 内 LAN 接 続 済		イ ン タ ー ネ ッ ト 接 続 済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	接 続	NAC SIS-CAT/ILL	NAC SIS-IR	そ の 他	未 接 続

## 九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行

平成5年4月23日改正

平成11年4月23日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。  
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。  
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。  
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。  
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。  
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。  
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

## 九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

表彰の日

第 条 表彰は、協議会の総会において行う。

勤務期間の計算

第 条 第 条第 号および第 号の勤務期間は、国公立大学図書 およびその他の図書 に在職し、 年以上を加盟の大学図書 に勤務したものでなければならない。

次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

- (1) 休職の期間 公傷病の期間は除く
- (2) 懲戒処分により停職された期間

則

第 条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事 は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和 42 年 4 月 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 55 年 5 月 9 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 9 年 4 月 25 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 11 年 月 23 日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書 協議会幹事

〇〇大学附属図書 長

殿

〇〇大学 附属 図書 長

○ ○ ○ ○

### 平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい います。  
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。



# 表彰者調書

大学 附属 図書

職名		ふりがな 氏名		生年月日	明 大 年 月 日 昭
表彰の区分	第2条第1号      第2条第2号      第2条第3号				
勤務成績					
第7条第2 第2号該当の有無					
履 歴 事					
年 月 日	勤 務 内 容 等			勤 務 期 間	
				加盟 期間	その他の期間
				年 月 日	年 月 日
計					
				合計	年 月 日

註 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって 月とするこ  
と。

(2) 第 条第 各号の除算期間は朱書すること。

(3) 第 条第 号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる  
資料等を添付すること。

表彰状様式(1)第2条第1号および第2号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは 年のながい間大学図書 関係の業務に精励されその功労はまことに大きいもの  
があります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州大学図書 協議会

-----

表彰状様式(2)第2条第3号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは図書 学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに 著なものがあり  
ます。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州大学図書 協議会

## 研修会の補助に関する申合せ

平成 年 月 20 日決定  
平成 年 月 日改正  
平成 年 月 24 日改正  
平成 年 月 25 日改正  
平成 10 年 月 25 日改正  
平成 15 年 月 25 日改正  
九州地区大学図書 協議会

地区の大学図書 活動を発展させるため、研修会、講演会等 以下「研修会」という。 の経費を補助する申合せ事 を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書 協議会に加盟している大学図書 が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金 は、年間 組織に対して 万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事 に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事 で行う。

### 別 紙

#### 経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書 協議会 北部地区
2. 福岡県・佐賀県大学図書 協議会 (福岡地区)
3. 福岡県・佐賀県大学図書 協議会 南部地区
4. 長崎県大学図書 協議会
5. 熊本県大学図書 協議会
6. 大分県大学図書 協議会
7. 宮崎県大学図書 協議会
8. 児島県大学図書 協議会
9. 沖縄県大学図書 協議会

別記様式

平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会  
幹事館

殿

組 織 名  
代 表 者  
所属大学

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 ( ) 時 分 至 平成 年 月 日 ( ) 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 具体的に	ア 講師謝金 _____ イ 資料代金 _____ ウ 会場借上費 _____ エ その他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 _____ 職 _____ 電話 _____ 内線 _____

※ 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

## 副幹事館の役割

平成10年 月 31日  
幹事館・副幹事館会議

### 通常時

1. 年度の事業・活動についての立案・協議
2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
3. 入会の勧誘等、協議会の広報 特に所属部会の各大学に対して
4. ホームページ充実のための提言等、意見具申

### 会誌発行時

各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが

- ・ 所属部会の情報 研究発表等、原稿情報 の提供等

### 総会時

1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
2. 前日決定された各部会における各役員館の事務局への連絡
3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認

### その他

- ・ 別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

## 九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年 月 31日  
幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ 以下、「ホームページ」という。  
は、九州大学附属図書館のサーバに置く。  
URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/kyogikai/kyutiku.htm>
2. ホームページの管理、維持 デザイン・構成を含む は、当分の間、九州地区大学図書館協議会事務局 以下、「事務局」という。が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものとし、それぞれ以下の館が作成する。
  - ・ トピックス NEWS  
加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成  
総会議事録は総会当番館が原稿を作成
  - ・ 加盟館一覧 事務局が作成
  - ・ 役員館一覧 事務局が作成
  - ・ 当番館一覧 事務局が作成

- ・九州地区大学図書館協議会誌  
事務局が作成 論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。
  - ・地区内の図書館活動  
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
  - ・各種関連資料集 事務局が作成
  - ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成
  - ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
  - ・フォーラムページ  
協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる
4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

## 九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

16.10.01 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
国立	九州工業大学 附属図書館 (館長 前田 博, 事務長 加治淳一)	804 -8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 附属図書館 (館長 工藤重矩, 情報管理課長 栗山 平)	811-4192	宗像市赤間文教町1番1号	0940-35-1258 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 今西裕一郎, 事務部長 石井保廣)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 小倉幸雄, 学術研究協力部長 千葉清人)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 岡林隆敏, 図書館部長 安永 勉)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 岩岡中正, 学術研究協力部長 東 雅彦)	860-8555	熊本市黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 附属図書館 (館長 大羽宏一, 総務部長 白石明教)	870-1192	大分市大字且野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 田村智淳, 学術研究協力部長 吉良知哲)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-2882 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 早川勝光, 事務部長 森松睦雄)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 田口信教, 学術図書情報課長 飯田昇平)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4871 (0994-46-4157)
琉球大学 附属図書館 (館長 親川兼勇, 事務部長 堀内眞也)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)	
公立	北九州市立大学 学術情報総合センター (センター長 棚次奎介, 事務課長 吉野光夫)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4040 (093-964-4038)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 高田 豊, 事務長 相川和之)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 田坂憲二, 事務長 松村信一郎)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 奥村幸夫, 事務長 笹田 彰)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-2118 (0947-42-9457)
	県立長崎シーボルト大学 附属図書館 (館長 相澤興一, 係長 山浦靖幸)	851-2195	長崎県長与町まなび野1-1-1	095-813-5075 (095-813-5224)
	長崎県立大学 図書情報センター (所長 柳田 芳伸, 専門幹 山上博子)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-2191 (0956-47-6941)
	熊本県立大学 附属図書館 (館長 永尾孝雄, 事務長 桂 重則)	862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-383-2929 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 吉良國光, 管理係長 姫野綾子)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-0543)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 齊藤高雅, 武宮伸二郎)	870-1201	大分県野津原町廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 田中 薫, 事務長 柳瀬敏典)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 赤星 誠, 教務課長 永野 宏)	880-0924	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
公立	鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 金谷義弘, 主査 愛甲照子)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)
	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 栗栖瑛子, 事務責任者 金城江利子)	902-0076	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 浅野春男, 主幹 幸地 哲)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-831-5038 (098-831-5068)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 青山道夫, 図書課長 宗広明則)	800-0394	福岡県京都郡苅田町大字新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	※西南女学院大学 図書館 (館長 近 昭夫, 課長 山田 寛)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 福永義臣, 事務室長 甲斐富美子)	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 藤井邦夫, 業務課長 松尾伸二)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1の8	093-693-3036 (093-603-2260)
	※九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 高橋 昇, 図書館次長 本田靖丸)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 野田 稔, 事務長 武 哲也)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-605-1080)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 増田 榮, 課長 佐田ひろみ)	811-1313	福岡市南区日佐3丁目42の1	092-581-1492 (092-585-7059)
	九州産業大学 図書館 (館長 古賀唯夫, 事務部長 山本正三)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5926)
	福岡大学 図書館 (館長 池上龍太郎, 次長 小柳 巖)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 吉岡慶子, 図書課長 猿渡健一)	814-0198	福岡市城南區別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 伊藤龍峰, 事務次長 篠崎 珣)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原 千高, 事務職員 田中昌昭)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-553-5698)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 南 俊朗, 図書館司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	※筑紫女学院大学・短期大学 附属図書館 (館長 小木野一, 課長 浅井博子)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	※福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 小柳親芳, 情報サービス課長 下条瑞恵)	818-0193	太宰府市五条4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 青木征男, 室長代理 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	久留米大学 附属図書館 (館長 西土純一, 課長 樽見徹男)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	西九州大学 附属図書館 (館長 香川せつ子, 課長 堤 慶征)	842-8585	神埼郡神埼町大字尾崎4490-9	0952-52-4191 (0952-53-7869)
	※活水女子大学・短期大学 図書館 (館長 宮崎隆広, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町1の50	095-822-4107 (095-823-3701)
	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 脇山信雄, 課長 伴 卓士)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5140 (095-838-2072)





	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
私立	名桜大学 附属図書館 (館長 石川清治 図書課長 山田義孝)	905-8585	沖縄県名護市字為又 1220-1	0980-52-4274 (0980-51-1065)
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋 司書 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下到津 5 の 1	093-561-3541 (093-561-9728)
	九州造形短期大学 図書館 (館長 狩野素朗 事務次長 末崎光蔵)	813-0004	福岡市東区松香台 丁目 3 の 2	092-673-5188 (092-673-5199)
	聖マリア学院短期大学 図書館 (館長 熊井昭彦 司書 安藤以千恵)	830-8558	久留米市津福本町 422 番地	0942-35-7271 (0942-37-1138)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 斉藤英雄 情報課長 坂川和彦)	833-0054	福岡県筑後市蔵数 495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 旭 啓之 司書 吉田良子)	866-8502	八代市平山新町 4438	0965-34-7651 (0965-34-7654)
	東九州女子短期大学 図書館 (館長 長野耕二 事務長 松元重幸)	871-0014	中津市大字一ツ松 211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	別府溝部学園女子短期大学附属図書館 館長 田邊 勲 司書 前田知子	874-8567	大分県別府市亀川中央町	0977-66-0224 (0977-67-8133)
	児島女子短期大学 附属図書館 (館長 前原隆鋼 図書課長 東郷邦照)	890-8565	児島市紫原 1 丁目 59 の 1	099-254-9191 (099-254-5914)
児島純心女子短期大学 図書館 (館長 小川孝夫 課長 大瀬忠治)	890-8525	児島市唐湊 4 丁目 22 の 1	099-253-2677 (099-254-5247)	

※印は、大学・短期大学を併せて 加盟館

### 九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 回次	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 24	九州大学	福岡女子短大	国 公私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 25	九州大学	福岡女子大学	国 公私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 26	九州大学	西南大学	国 公私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 27	九州大学	九州産業大学	国 公私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 28	九州大学	福岡大学	国 公私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 29	九州大学	九州芸術工科大学	国 公私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 30	九州大学	九州産業大学	国 公私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 31	九州大学	福岡女子大学	国 公私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 32	九州大学	西南大学	国 公私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 33	九州大学	福岡大学	国 公私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 34	九州大学	九州芸術工科大学	国 公私	琉球大学 福岡社会保育短大 児島経済大学	宮崎医科大学 児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 35	九州大学	福岡女子大学	国 公私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 36	九州大学	中村学園大学	国 公私	宮崎大学 熊本女子大学 児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 37	九州大学	福岡女子短大	国 公私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回次)	幹事館	副幹事館		監査館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 私短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・ 短期大学	筑紫女学園大 学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・ 短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・ 短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・ 短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・ 南九州短期大学 西南女学院大学・ 短期大学

## 九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大学
2	26	熊本	熊本大学
3	27	長崎	長崎大学
4	28	佐賀	佐賀大学
5	29	鹿児島	鹿児島大学
6	30	宮崎	宮崎大学
7	31	大分	大分大学
8	32	福岡	西南学院大学
9	33	福岡	九州大学
10	34	熊本	熊本大学
11	35	福岡	九州工業大学
12	36	長崎	長崎大学
13	37	福岡	福岡大学
14	38	佐賀	佐賀大学
15	39	福岡	福岡教育大学
16	40	宮崎	宮崎大学
17	41	福岡	八幡大学
18	42	鹿児島	鹿児島大学
19	43	福岡	九州大学
20	44	熊本	熊本商科大学
21	45	福岡	久留米大学
22	46	大分	大分大学
23	47	福岡	北九州大学
24	48	長崎	長崎大学
25	49	福岡	九州産業大学
26	50	佐賀	佐賀大学
		〃	佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉球大学
28	52	福岡	九州大学
29	53	大分	大分大学
30	54	宮崎	宮崎大学
31	55	福岡	九州歯科大学

回次	年度	県別	大 学
31	55	福岡	福岡女子大学
		〃	福岡県社会保育短期大学
32	56	熊本	熊本女子大学
33	57	鹿児島	鹿児島大学
		〃	鹿児島県立短期大学
		〃	鹿児島経済大学
34	58	福岡	西日本工業大学
35	59	長崎	長崎大学
36	60	宮崎	宮崎医科大学
		大分	大分県立芸術短期大学
		宮崎	南九州大学
		長崎	純心女子短期大学
37	61	福岡	九州芸術工科大学
38	62	佐賀	佐賀医科大学
39	63	沖縄	琉球大学
40	平成元	福岡	北九州大学
41	2	大分	大分医科大学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大学
43	4	福岡	西南学院大学
44	5	熊本	九州東海大学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大学
46	7	福岡	九州工業大学
47	8	長崎	長崎大学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大学
49	10	福岡	福岡女子大学
50	11	佐賀	佐賀大学
51	12	沖縄	沖縄国際大学
52	13	福岡	九州女子大学
53	14	大分	大分大学
54	15	宮崎	宮崎大学
55	16	福岡	福岡教育大学
56	17	中部	熊本大学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大学

## 編集後記

○皆様のご協力のおかげで会誌第 47 号を発行することができました、誠に有り難うございました。

○これからも皆様と一緒にこの協議会誌を良くしていきたいと考えていますので、ますますのご支援くださいますようお願いいたします。

(平成 17 年 2 月事務局 K 記)

### 九州地区大学図書館協議会誌 第 47 号

平成 17 年 2 月発行

発行 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学附属図書館内  
九州地区大学図書館協議会

TEL (092) 642-2324

FAX (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/kyogikai/kyutiku.htm>